

◆ 平成29年度 スポーツ庁 ◆
大学横断的かつ競技横断的統括組織(日本版 NCAA)創設事業
(大学スポーツ振興の推進)

地方創生型大学スポーツ提案拠点の形成 成果報告書



スポーツ庁
J A P A N
S P O R T S
A G E N C Y



青山学院大学

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

平成 30 年 3 月

青山学院大学

目次

第一章	委託事業の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第二章	スポーツアドミニストレーター育成事業・・・・・・・・	3
第三章	青学米原駅伝の開催：新たなる駅伝文化の涵養と発信・・・・・・・・	8
第四章	大学スポーツ施設を拠点とするプロバスケットチームのホームアリーナ化 への更なる取組・・・・・・・・・・・・・・・・	25
第五章	広報活動・・・・・・・・・・・・・・・・	76

第一章 委託事業の内容

1. 事業趣旨・目的

本事業では、本学のこれまでの改革と実績を基盤として、わが国が直面する少子高齢化社会に求められる健康長寿の実現に向けた地方創生型大学スポーツ提案拠点の形成に取り組む。そして、本事業の推進によって、地域社会を支え、人々に貢献する真のサーバント・リーダーを育成し、次世代型ウェルビーイングの実現とともに、新たな青山学院ブランドを確立する。そして、それらを実現するための一歩として、具体的には、以下の2つの事業を実施する。

(1) 青学米原駅伝の開催：新たな駅伝文化の涵養と発信

駅伝による地域住民の結びつきの強化・地域活性化という新たな駅伝文化の涵養と発信を目指す。具体的には、地域協定を結んでいる「米原市」で、10月1日に本学の陸上競技部長距離ブロックも参加する青学米原駅伝を開催し、駅伝文化の地域発信と高齢者も含めた地域住民の「絆」を結ぶことを目指す。そして、今回の成功事例を次年度以降、他の地域での第二・第三の青学〇〇駅伝の開催に繋げ、少子高齢化や住民間の人間関係の希薄化に悩む地域の活性化を促す。

(2) 大学スポーツ施設を拠点とするプロバスケットチームのホームアリーナ化への更なる取組

2015年、本学は渋谷区および(株)日立製作所との産官学連携の取組として、Bリーグプロバスケットチーム「日立サンロッカーズ東京・渋谷」が、日本で初めて大学体育館をホームアリーナとして使用することとなった。2016年は、平均2300人の観客を動員する実績を残したが、その効果の検証までは至らず、研究機関としての課題を残した。今回、9月から開催のBリーグで、観客へのアンケート調査を行い、関連する効果についてスポーツ庁に対して報告する。

そして、得られたデータ・知見を、本学の学生・卒業生等とサンロッカーズとの一体感の醸成に活かし、日本における大学とプロスポーツチームの連携の先進的モデルとして更なる発展を促し、日本の大学スポーツ界を牽引することを目指す。また、今後の他大学におけるプロスポーツチームの誘致・連携等の効果の可能性を検証し、他大学における新たな取組の一助となることを期待する。

2. 事業計画

2-1. 青学米原駅伝の開催

本学の陸上競技部の駅伝実績は、2014年から箱根駅伝3連覇を成し遂げており、その監督である原晋氏の知名度は非常に高い。この知名度を最大限に活かし、原晋監督に参加いただき、本学の考える青学オリジナル駅伝大会を実施する。

特徴として、各地で直面している少子高齢化による諸問題に取り組む。具体的には、参加者の年齢や地域に合わせた駅伝を同じ大会の中で実装する。これにより過疎化の進む地域の中に輪を作り、多くの地域で問題となっている孤独や高齢化に一石を投じる。また、個人参加者をチームにする仕組みを作り、駅伝でしか作れない「絆」を育ませるための男女マッチング機能を開発する。

今年10月1日に米原市で住民約120人の参加者を想定した駅伝大会を行う。駅伝実施後、参加者にはアンケート調査を行い、その効果について検証する。大学と自治体が共催して行う駅伝大会は類がなく、本学としても初めての実践研究となり、第二第三の大学主催の駅伝大会に向け、第一歩を踏み出す。

2-2. 本学記念館の「日立サンロッカーズ東京・渋谷」のホームアリーナ化に関する効果検証

日本の代表的プロスポーツである野球やサッカーは多くが自社の球場や自治体の所有する競技

場を本拠地としているが、それは収益事業として成り立つスポーツだけであり、マイナースポーツや個人種目については、その限りではない。スポーツを振興していくのであれば、規模の大小に限らず、大学スポーツ施設を貸出し、収益を得る資金調達力向上は、これからのスポーツの振興には欠かせない取り組みであり、日立サンロッカーズ、渋谷区、青山学院大学の産官学連携によるプロバスケットチーム誘致事業は、日本の大学スポーツ施設の活用としては、類のない先進的な取り組みと考える。

具体的な調査としては、まず9月から始まるリーグ戦において、本学の学生にBリーグの試合を観戦してもらい、大学及びサンロッカーズに対する意識の変化をWeb調査し、一般の観客に対してアンケート調査を行い、経済効果等について検証する。更に大学生のスポーツ関連調査を行ない、事業報告書にまとめる。調査は本学体育館で2回、地方開催で2回、大学生への調査の数を予定しており、具体的な調査項目は以下の通りある。

- 1) プロバスケットのリーグ戦が及ぼす地域への経済効果（渋谷）
- 2) プロバスケットのリーグ戦が及ぼす大学のブランド力向上
- 3) プロバスケットへの大学生の意識の変化
- 4) 地方都市で開催されるプロバスケットのリーグ戦が及ぼす地域への経済効果
- 5) 興行収入による大学スポーツへの支援
- 6) その他、上記に関連する事項について

2-3. スポーツアドミニストレーターの育成

本学では、すでにスポーツ支援課に4名のスポーツアドミニストレーターがおり、学生アスリートに対応したカリキュラム担当者、大学施設の有効活用を促す施設管理担当者、スポーツ全般を担当するロンドンオリンピック出場者、フィットネスセンター担当者を配置している。また、青山キャンパス・相模原キャンパスには約4,000人が登録するフィットネスセンターが設置されており、学生アスリートのみならず、一般学生に対してスポーツ文化の醸成に取り組み、スポーツと健康を主題としたワークショップを開くなど、スポーツに対する啓蒙活動を実施している。

今回、本学の新たな取り組みとして、研究推進課の産学連携コーディネーターとUR Aが参画する。これにより、研究推進課での産業界とのこれまでの経験と実績に基づき、スポーツアドミニストレーターと連携を取りながら、スポーツ振興の発展を目指す。

上記のように本学では、スポーツアドミニストレーターが大学スポーツに関する専門的な業務を行っているが、同アドミニストレーターが新たに「日立サンロッカーズ」及び米原市との地域創生を目指す事業に取り組むことによって、大学スポーツを学外の組織や自治体と連携し、発展させることが出来る更なる高い専門性を持った大学スポーツアドミニストレーターの育成に寄与することを目指す。

第二章 スポーツアドミニストレーター育成事業

学生生活部スポーツ支援課

スポーツアドミニストレーター 佐藤 良

日本版NCAA創設に関する委託事業においては、「大学スポーツ」を活性化させることが第一と考えられるが、事案を企画、立案、実行する者が必要となることは言うを待たない。そのために、青山学院大学では、まず「スポーツ支援課」を設置するなど、様々なアプローチ方法の検討を始めた。青山学院記念館（大学体育館）の外部利用対応や大学組織の整備、大学施設の整備と学生の利用推進などスポーツアドミニストレーター育成とともに検討、実施してきたことについて報告する。

1. 青山学院記念館（大学体育館）の有効活用

2016年10月から日立サンロッカーズ渋谷のホームとして、青山学院記念館（大学体育館）を使用することが決定したことに対して、様々にクリアしなければならない条件を整えてきたことは、スポーツアドミニストレーターを育成することに大きく寄与したと考える。

第一に、大学体育館を使用するにあたっては授業への影響を最小限にする、使用しているクラブの練習時間への影響を極力少なくするという大前提が必要であった。試合（外部貸出）は土日開催ということで、授業への影響は集中授業への対応に絞りこむことが可能であったが、クラブの練習時間への影響はかなりの調整を必要とした。その点について、相模原キャンパスでの練習場所調整とともに今回の提案元である渋谷区にご努力いただき、区施設を一部開放してもらい対処していただいた。記念館の貸出については、日立サンロッカーズのみならず渋谷区も含め産官学の連携が重要な要素となっている。産官学三者の定期的な折衝連絡を行う必要とともに、それに伴う大学内での連絡を行い、スムーズに青山学院記念館（大学体育館）が使用できるようにしなくてはならない。体育館の施設を習熟した上で、どのように使用できるのかをきちんと借用者に説明できること。実際に使用した際の不具合等の確認と対処。使用後にきちんと復旧できているかの確認等外部貸出とともに、大学体育館としての使用を逸脱しないように配慮する必要がある。第二に青山学院大学及び青山学院内においての連絡を密に行い、大学体育館として使用された上で、どのように外部貸出がなされているか理解してもらっておかなくてはならない。施設面のみならず、大学構内への外部団体が入ることへの周知、方法等あらゆる面の連絡が必要になることを実際的に学び、対処することになった。この他にも、大学体育館としての使用が基本の教育施設であることから税制面での優遇を常に意識しておく必要があるとともに、興行法による収容可能人数や興行回数等も関係してくることは忘れてはならない。しかし、このようなことから、大学スポーツ施設を収益可能な施設としていく為には、規制法の緩和や（法人税や固定資産税など）税制面での優遇策も検討しなければいけない課題として重要となると考える。

現時点においては、まず記念館（大学体育館）が外部借用可能になったということが最大の結果と思われるが、日本版NCAA事業について青山学院大学の学生にとって何ができるのかという点では、これからの課題として検討を必要としている。自分が通学する大学において、プロスポーツが開催されているということがどのくらい浸透しているのか？また、どれだけの学生がそのプロスポーツを見たのか？それらについては、厳しい評価を下さざるを得ない。まず、スポーツアドミニ

ストレーターとしての広報活動の拙さと大学として方法論の勉強不足を挙げなくてはならない。今まで大学での「スポーツを広報する」という環境がなかったということは言わざるを得ないが、そもそもの点に気づかざるを得ないということは大学自身と大学スポーツが変わらなくてはならないということの証左であろう。日本版NCAA事業の中でそのような関連調査も含め進められていることも大変有意義なことになっている。駅伝を地方都市で開催することによる現地確認や日立サンロッカーズの対戦相手の観戦者へのアンケート等は大学にとどまらない波及効果を確認することができたことは大きな成果であったと考える。スポーツアドミニストレーターとして、どのような事ができるのか？異なる施設での対応方法、広報活動等々新たな見聞を広げる機会を得たことは、今後の大学での活動において重要な指針となりえると考え。また今回の調査対象から、さらなる事例の展開を検討することにより地方との連携を高め地方創成という本事業の主目的に繋がる活動の一助として動くことができるのではないかと考える。そもそもスポーツアドミニストレーターという肩書が示すものについて明確なものがない中で、この事業を実施しながら体得していくことは、大学スポーツ振興という意味において様々な観点から育成への指針となりうると思う。

2. 青山学院大学組織としての取り組み

青山学院大学では、2016年より大学スポーツの振興を図る目的でスポーツ支援課を設置し、大学体育会へどのような支援ができるのか検討している。スポーツに優れた学生の入学に際しては、年度当初に保護者とともに全員の出席を求めた上で青山学院大学の教育方針とスポーツとの関わりについて時間をかけて説明を行っている。さらに5月には体育会全体として入会式を行い、大学で体育会を選んだ学生に対して青山学院大学としての体育会の基本を全員に説明、大学スポーツを盛り上げていく旨を表明している。6月以降は毎月、体育会各部の担当者を集め主務会議を開催し、各体育会の状況を把握するとともにいつでも連絡が取れるようにしている。それと並行し、スポーツに優れた学生の2年次生に対する面接を実施し、単位取得状況の確認とともに大学生生活の相談等も行っている。その他にも学務と連携し体育会学生へ語学特別カリキュラム等も実施している。AOYAMA SPORTS VISIONにあるAAA (AOYAMA Academic Athletes) 育成を目指し、大学スポーツを振興することと同時に大学生本来の教育面を疎かにすることのないようにしているが、今後は今一步踏み込んだきめ細かなチューター制度等を実施できるようにする必要を感じている。学務以外にも、進路就職部とともに体育会学生限定の就職セミナーの開催や体育会学生を積極的採用している企業の説明会開催等キャリアプログラムの多様化も行っている。新たな取り組みとして、体育会OB会との連携を図り「コーチズセッション」として、OBや監督指導者が現役学生や大学とどのように交流支援できるかを試みている。今後も年2回ほどの開催を予定し、OB会との支援方法を拡大し大学スポーツの振興を図る方向である。さらに昨年11月には大学全体でスポーツ振興を検討するものとして、学長直轄の「スポーツ振興委員会」を設置し「青山学院大学スポーツビジョン」を制定、「大学スポーツ」のさらなる発展や体育会のみならず一般学生も含めた「大学スポーツ」活性化へ向けた取り組みを開始している。

3. 大学施設整備と学生利用推進（フィットネスセンターの取り組み）

体育会学生への支援においては種々検討しながら進められているが、一般学生の大学におけるスポーツ振興はより考える必要のある課題であると捉えている。青山学院大学では、2012年から「フィットネスセンター」を相模原キャンパスに設置し、まず正課以外にスポーツに接する機会を増や

す努力を始めている。2013年からは青山キャンパスにおいてもフィットネスセンターを設置、スポーツをする機会を増やすようにしている。スポーツ支援課を設置する以前から一般学生が気軽にスポーツができる環境を提供しており、4,000名の学生が登録を行い定期的なトレーニングに励んでいる。フィットネスセンターでは、トレーニングの指導のみならず様々なプログラムも用意して、よりスポーツに親しめるようにしている。プログラムとしては、「マラソンチャレンジプログラム」として5月から開始して半年程でハーフマラソンの完走を目指すものや「ボディメイクプログラム」として3ヶ月程度の期間設定のもとトレーニングと食事指導で「自分になりたい身体」を目指すものなどがある。「ボディメイクプログラム」は2013年から開始されており、当初女子学生のみを対象として「美ダイエット」で行われて56名の女子学生が取り組んできたが、フィットネスセンターに登録している男子学生からも参加したいとの希望が多くあったため、2017年に名称を改め男女に関わらず取り組むこととした。今年は40名の定員で開始し、男子学生5名女子学生19名が参加した。今後も一般学生がよりスポーツに親しんで青山学院大学における4年間の学生生活で、勉学と同時に「生涯スポーツの起点」になるような取り組みを進められる様々なプログラムを創出していきたいと考えている。

【美ダイエット（青山）】 ※全員女性

	スタート時	定員	終了時点
2013年10月	20名	20名	12名
2014年2月	25名	25名	15名
2014年5月	20名	20名	12名
2014年10月	20名	20名	7名
2015年5月	25名	25名	10名
2016年10月	30名	無制限	8名

【ボディメイクプログラム（青山）】

	スタート時	定員	終了時点
2017年10月	23名（男性1名、女性22名）	25名	15名（男性0名、女性15名）

【美ダイエット（相模原）】 ※全員女性

	スタート時	定員	終了時点
2013年10月	5名	5名	3名
2014年2月	7名	7名	3名
2014年10月	10名	10名	5名

【ボディメイクプログラム（相模原）】

	スタート時	定員	終了時点
2017年10月	14名（男性6名、女性8名）	15名	9名（男性5名、女性4名）



「ボディメイクプログラム/実施時様子」

【フィットネスセンター】

・青山キャンパスの登録者数

累計	一般学生		体育会		教職員		男性合計	女性合計	全体合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
新規登録者	503	504	155	102	6	8	664	614	1278
更新者	454	236	319	197	38	12	811	445	1256
青山合計	957	740	474	299	44	20	1475	1059	2534

・相模原キャンパスの登録者数

累計	一般学生		体育会		教職員		男性合計	女性合計	全体合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
新規登録者	358	118	112	19	8	11	478	148	626
更新者	368	83	170	45	21	12	559	140	699
相模原合計	726	201	282	64	29	23	1037	288	1325

(2018/2/21 現在)



「ランニングプログラム/横須賀ハーフ参加写真」

4. 2020年東京オリンピック・パラリンピックへの協力

日本版NCAA創設については、「大学スポーツ振興」が第一の目的であると思うが、2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることは、日本版NCAA創設を大いに後押しするものとなると思っている。青山学院記念館（大学体育館）が有効活用されるようになったことで、

2020 東京に対しても協力体制を整えるべきとの考え方のもと、全学的にどのような事が可能なのか検討されている。

組織委員会からは練習場所としての提供について質問があり、提供した場合大学としてどのような不具合が生じるのか？学生にとっての利点は？などをスポーツ支援課が中心にまとめ、対応を模索しているところである。2018 年 1 月末には、東京都オリンピック・パラリンピック準備委員会からの依頼で「TEAM BEYOND」としてパラスポーツ普及イベントを開催、観覧者 100 万人達成ということで小池東京都知事も参加し、当日は 1,000 名程の方が青山学院記念館（大学体育館）へ足を運んだ。今後も渋谷区開催予定のパラスポーツ応援イベントなども協力できるよう進めているところである。また、施設面のみならず、ボランティア活動等についても積極的に協力できるよう大学連携を検討しているところである。

5. アドミニストレーター育成事業の継続

ここまでスポーツアドミニストレーター育成について、2017 年度の実施報告をしてきたが、2018 年度も引き続き日本版 N C A A 創設による「大学スポーツ振興」のために活動を継続するとともに、資するような企画を検討して、実施したいと考えている。

1. 米原駅伝のような地方都市共催駅伝を拡大
2. 青山学院大学体育会広報の拡充～「青山スポーツ」を中心にした学生によるスポーツマネジメントの確立～
3. B リーグ開催地アンケートの拡大継続
4. フィットネスセンターを中心とした一般学生のスポーツ機会拡充

1 については、共催市を検討中ではあるが、開催しつつ収益モデルの一つとして形を整え提供できるようにする方向性をもって継続したいと考えている。2 については、体育会本部付広報として「青山スポーツ」を中心にして、スポーツ関連企画（自校開催でのリーグ戦応援等）の開催や「青山スポーツ」配布による効率的な広報体制の確立をめざしたい。また、3 について本年度とは異なるチームでのアンケートを実施できればと検討しているが、同時にアリーナを見学することによって大学がどのような施設を検討すればよいのかも視野に入れておきたい。今回最終報告の前に、仙台 89ERS がホームとしている「ゼビオアリーナ仙台」を見学する機会を得たがアメリカのアリーナを参考にした構造は様々な点で有益であった。何よりも、仙台駅から一駅かつ下車 2 分の立地にして 4,000 人収容可能な設計や周辺に病院やマンション住居、量販店等があることは地域スポーツの拠点としての位置づけになっていくと思われる。このような形のアリーナを大学施設として設置し、持続可能な運営ができるかどうかを含めて検討してみることは大学スポーツにとって重要なことだと考える。産官学が連携し、収益性のある施設を検討することができれば、日本版 N C A A 創設事業が目指す大学スポーツ振興と同時に地方創生のモデルとして育成できると考えている。4 については、報告した以外に多様で魅力的なプログラム提供を行い一般学生の利用者数増を図りながら、学生のみならず地域に開いていくことができるか検討するべきと考えている。

第三章 青学米原駅伝の開催：新たなる駅伝文化の涵養と発信

国際マネジメント研究科 宮副 謙司

活動概要の要約

青山学院大学が滋賀県米原市と連携し市民駅伝大会に参画し、地域のスポーツ健康の活性化、スポーツ人材の育成、地域住民のコミュニティの絆の醸成などに貢献するとともに、青山学院大学のブランド向上と地域への浸透を図った。このような大学と自治体の共催による駅伝大会の開催は全国初の試みであり、その取り組みが実現された。

1. 事業の企画趣旨

1-1. 取り組み全体の背景と趣旨

青山学院は 2024 年の創立 150 周年に向け、本学の今後進むべき道を「すべての人と社会のために未来を拓くサーバント・リーダーを育成する」と明示する「AOYAMA VISION」を 2014 年に策定した。それを踏まえ、本学に在籍する学部生及び大学院生、さらには卒業生に至る全ての関係者がサーバント・リーダーとして社会の根底で他者を支え、導き、また未来を照らす存在となることを目指している。

そこで本事業は、本学のこれまでの改革と実績を基盤として、わが国が直面する少子高齢化社会に求められる健康長寿の実現に向けた地方創生型大学スポーツ提案拠点の形成に取り組むことを位置付けた。この取り組みの推進によって、地域社会を支え、人々に貢献する真のサーバント・リーダーを育成し、次世代型ウェルビーイングの実現とともに、新たな青山学院ブランドの確立を目指していく。

1-2. 駅伝文化涵養事業：米原市と青山学院大学との協働での「青学米原駅伝」の開催

上記のような背景と趣旨を踏まえ、具体的なアクションとして、青山学院大学は、2017 年 10 月、滋賀県米原市と共催し、その市民参加型駅伝大会に長距離陸上部駅伝の原監督や学生選手メンバーが参画し、大会を盛り上げた。

そもそも駅伝は、日本発祥のスポーツであり、その起源は 1917 年にさかのぼる。その特徴は長距離を複数の人員で「襷」をつなぎゴールする団体競技である。また、駅伝競技は、年齢を問わず参加でき、また走る距離も固定されておらず、言わば国民のだれもが参加できる団体競技であり、様々な地理的条件にも対応できる万能のスポーツと言える。なかでも箱根駅伝は 90 年以上の歴史を持ち、全国的に知名度が高く日本の正月の風物詩となっている。

1-3. 米原市の概要

滋賀県米原市は、滋賀県東北部に位置し、日本百名山のひとつである伊吹山がそびえ、総面積の 63%を占める森林にたくわえられた水は、清流姉川や天野川となって地域を流れ、母なる琵琶湖に注ぐという、水と緑に包まれた自然豊かな地域である。さらに豊富な湧き水を誇る水の郷としても知られている。

また古くから近畿・東海・北陸を結ぶ交通の要衝、中山道や北国街道の宿場町として栄えた。

米原市は、2015年11月に青山学院大学と地域活性化について包括連携協定を締結している。青学との交流の取り組みとしては、「米原水」の商品開発なども行っている。

米原市は、青山学院大学駅伝関係者と協働に関して、青学駅伝メンバーが米原市市民とともに米原市を快走することで、駅伝文化を地域に発信し、さらに高齢者を含めた地域住民の「絆」を結ぶことなどを期待している。

1-4. 青山学院大学のリソース

青山学院大学は、スポーツ面、地域活性化面で様々なリソースを有している。

駅伝

本学の陸上競技部の駅伝実績は、2014年に箱根駅伝優勝を果たし、現在4連覇を成し遂げている。2016年度は出雲・全日本・箱根の大学駅伝3冠を獲得し、青学=駅伝とイメージされるように青学を代表する象徴となり、全国的にその知名度を高めている。

原監督

陸上競技部（長距離ブロック）の監督である原晋氏、従来の教育方法ではない独自の教育法・指導法を掲げ、その実行力、目標達成力に関心が高まっている。彼の知名度は、箱根駅伝の連続優勝から非常に高く、著書の「青トレ」は13万部を超え、ベストセラーとなっている。また原監督は、2016年8月より米原市のスポーツ応援大使に就任している。

スポーツ関連組織と人材

本学では、具体的なスポーツ関連組織・人員体制として、2016年10月1日に学生生活部に「スポーツ支援課」を設置し、同じ課外活動団体（文化連合会、愛好会など）と別に大学スポーツ全体を統括している。さらに、野球、陸上競技、ラグビー、男子バスケットボール、女子バレーボール担当の専任指導者を置き、支援体制を明確にしている。また、統括業務の円滑な実施に向けて、大学施設管理担当経験者やカリキュラム担当経験者、ロンドンオリンピック出場者を配置し、学業とスポーツを学生アスリートが両立しやすい環境をすでに構築している。

本学では、すでにスポーツ支援課に4名のスポーツアドミニストレーターがおり、学生アスリートに対応したカリキュラム担当者、大学施設の有効活用を促す施設管理担当者、スポーツ全般を担当するロンドンオリンピック出場者、フィットネスセンター担当者を配置している。また、野球、陸上競技、ラグビー、男子バスケットボール、女子バレーボール担当の専任指導者を置き、スポーツ技術の向上と学生生活、学業の両立を図っている。

さらに、青山キャンパス・相模原キャンパスには約4000人が登録するフィットネスセンターが設置されており、学生アスリートのみならず、一般学生に対してスポーツ文化の醸成に取り組み、スポーツと健康を主題としたワークショップを開くなど、民間会社に学生アスリート専門のトレーナー（4名）および一般学生用トレーナー（3名）を委託し、大々的にスポーツに対する啓蒙活動を実施している。

スポーツ教育活動

教育プログラムとして、現在、正課の中に、競技者やその周辺に位置する学生向けのプログラム

として「スポーツキャリアプログラム」を社会情報学部が開発し、全学に提供している。これは、実践を重視した演習科目を中心として、健康・スポーツデータの分析・評価技術の修得とコミュニケーションとコーディネート能力の涵養を目指し、競技者として、その支援者として、さらにコミュニティへの貢献者としての人材育成を目指している。

また大学院国際マネジメント研究科（青山ビジネススクール）のMBA課程学生らが中心となってNPO法人「Shape the Dream」を立ち上げ、アスリートのセカンドキャリア教育に取り組んでおり、青学の体育会所属学生向けキャリア講座・ガイダンスを開催し、さらに外部の中高生・大学生向けの研修を行うなど、スポーツ支援活動が活発に展開されている。

地域活性化の取り組み

総合文化政策学部、社会情報学部などでは、キャンパスが立地する青山や相模原など地域を対象に地域活性化の科目展開があるが、なかでも大学院国際マネジメント研究科（青山ビジネススクール）では、MBA課程の専門科目として2012年から「地域活性化のマーケティング」を開講し、徳島県神山町、米国ポートランド市などの地域活性化の事例ケース授業及び全国各地の地域活性化戦略策定を行っており、その受講生数は2017年までの累計で約150名に達している。現在では地域ブランド開発、戦略手法論の開発整備し、地域活性化の戦略プランニングやプロジェクト推進を担う創造的リーダーの養成力を高めている。

1-5. 青山学院大学の当事業への期待

青山学院大学としては、学内のアドミニストレーターが新たに米原市との地域創生を目指す事業に取り組むことによって、大学スポーツを学外の組織や自治体と連携し、発展させることができる、さらに高い専門性を持った大学スポーツアドミニストレーターの育成につながっていくことを期待している。

2. 事業の概要

2-1. 米原市と青山学院大学との協働での「青学米原駅伝」

2017年10月1日（日）に米原市米原中学校及びその敷地外周（市道を含む）を会場として、青学学生駅伝メンバーも参加する米原市民駅伝大会及びを青学駅伝原監督による講習公開講座を開催した。ちなみに10月1日は米原市では「1001My 原 体育の日」と制定されている。

当日実施されたプログラム

第1部：青学駅伝 原監督による講習公開講座（米原中学校体育館）

地元の小・中学生30名（さらにその保護者）及び一般市民を対象に、青学原監督がスポーツの夢やそれを叶える方法、日頃から備えておく心構えなどについて講演がなされた。また駅伝レースを前に、青学陸上競技部が実施する「青トレ」も伝授され、部員3名による実演も交えながらストレッチ実践講習も行われた。

写真-1 原監督による公開講座



第2部：青学学生駅伝メンバーも参加する米原市民駅伝大会

米原中学校校舎正面広場を起点とした中学校敷地外周（距離：約1200m）を1チーム6名で、青学チームは駅伝選手学生3名がリレーする駅伝大会（「MAIBARA×AOGAKU 駅伝」）が開催された。小学生9チーム、中学生4チーム、高校生4チーム、一般5チーム、合計23チーム（138名）と青学チーム（3名）が参加した。

このような大学と自治体が共催して行う駅伝大会はこれまでに類がなく、本学としても初めての実装研究となった。

写真-2 会場を俯瞰する地図



写真-3 市民駅伝大会スタート地点の状況



準備施策

本大会の準備過程として2017年7月下旬に米原市との協議・大会実施体制の決定、準備の開始、9月中旬に米原市での現地視察及び最終確認などを行い、それらを経て10月1日に大会実施となった。

当日のプログラムと実施スケジュール

12:15～12:30 開会式（体育館）（平尾市長・三木学長による開会の挨拶、来賓の方々の挨拶、原監督と青学選手3名の紹介など）、12:30～13:10 公開講座授業（体育館）、13:15～13:25 駅伝ルール説明及びウォーミングアップ（スタート前広場）、13:30～14:15 レース、14:30～15:00 表彰及び閉会式（スタート前広場）

さらに、校舎前広場では、青学駅伝チームへの応援寄せ書きイベントや、青学と米原市コラボ商品開発による「米原水」の販売などが行われた。

写真-4 青学駅伝チームへの応援メッセージ寄せ書きイベント



大会の状況

スターター原監督の号砲で各部門の第一ランナーがスタート。市民ランナーが必死に走るのに対し、青学選手たちは笑顔を見せるなどの余裕。しかし子供たちをごぼう抜きするなどし、約450名の観客からは「速い」「すごい」などと歓声があがっていた（2017年10月3日付け「滋賀夕刊」記事）。

優勝は、米原中学校陸上部 A チーム。2 位は滋賀電力ランニングクラブ、3 位は伊吹高校ホッケー部 A で、青学チームは 4 位だった。

写真-5 表彰式の状況



3. 当日の実施概要

3-1. 参加者数とそのプロフィール

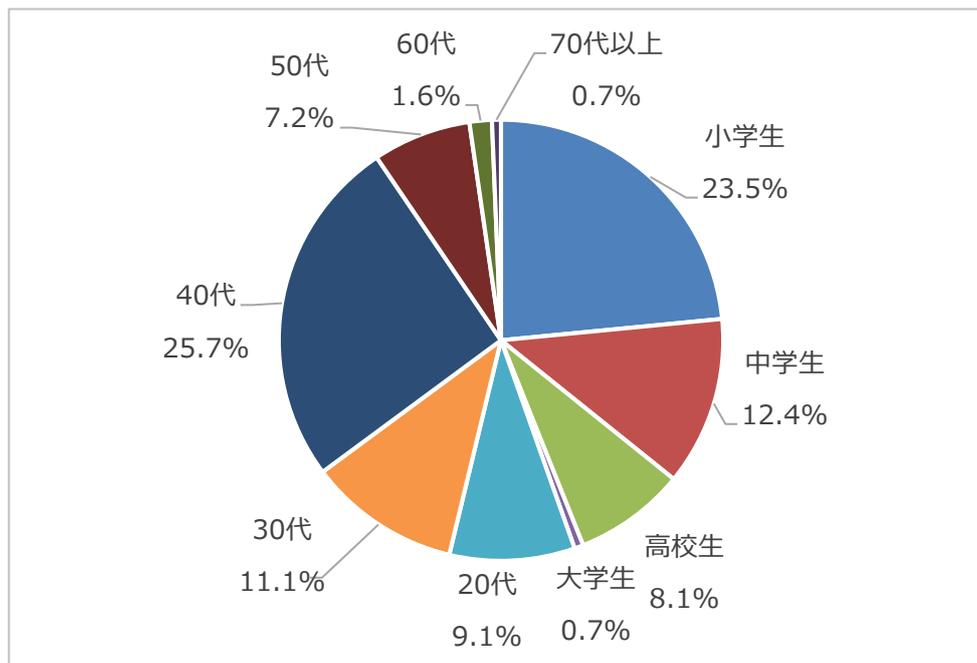
当日の駅伝参加者は 132 名であるが、その応援者や一般観客及び原監督公開講座聴講者などを合わせ、当初想定 300 名を大きく超える約 500 名の来場参加者があった。当日は会場で来場者にアンケート調査を行ったが、そのアンケート回答者だけでも 311 名に達した。

参加者プロフィールは駅伝大会終了後に行ったアンケート調査結果をもとに分析する。¹

アンケート回答数は 311 名で、その性別は男性 58.2%・女性 41.8%、年齢層は、小学生 23.5%、中学生 12.4%、高校生 8.1%、40 歳代 25.7%、30 歳代 11.1%、20 歳代 9.1%と比較的若い年代層の来場・参加・アンケート回答であった。50 歳代 7.2%、60 歳代 1.6%であった。

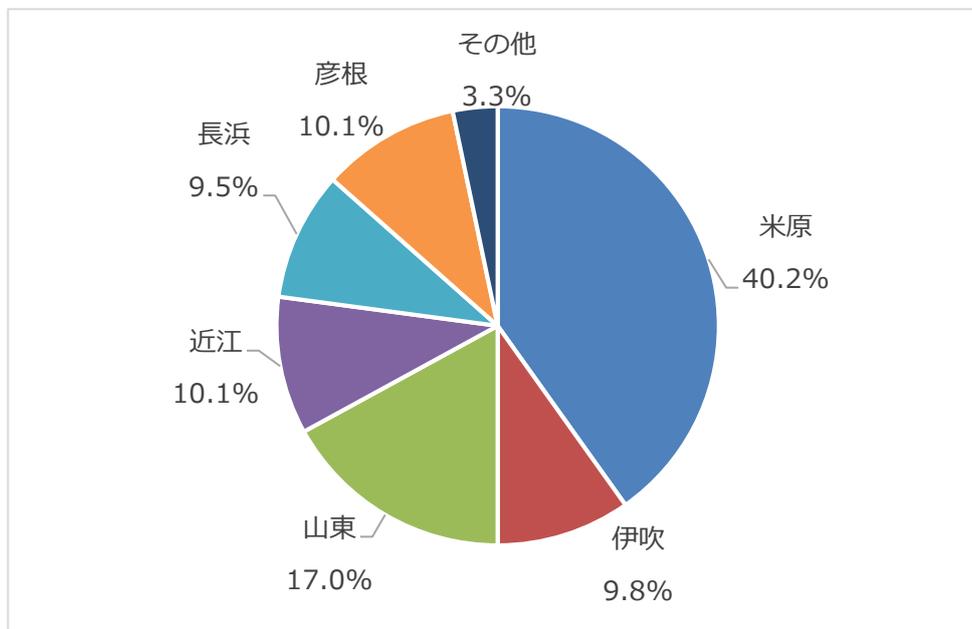
¹ アンケートは、駅伝大会終了後会場にて調査票配布・記入・回収の方式で実施し、一般 245 名、小中学生 66 名、合計 311 名の回答を得た。回収目標 150 名を大幅に超える回収を得た。(アンケート内容については、別紙 1・2 参照)

図表-1 参加者プロフィール：年齢別構成比



参加者の居住エリアとしては、米原市米原地区が 40.2%を占めるが、山東地区（17.0）、近江地区（10.1）、伊吹地区（9.8）と合わせ米原市内 77.1%を占める。市内各地からまんべんなく参加があったということになる。さらに隣接する彦根市（10.1）・長浜市（9.5）からも参加があった。

図表-2 参加者プロフィール：居住エリア別構成比



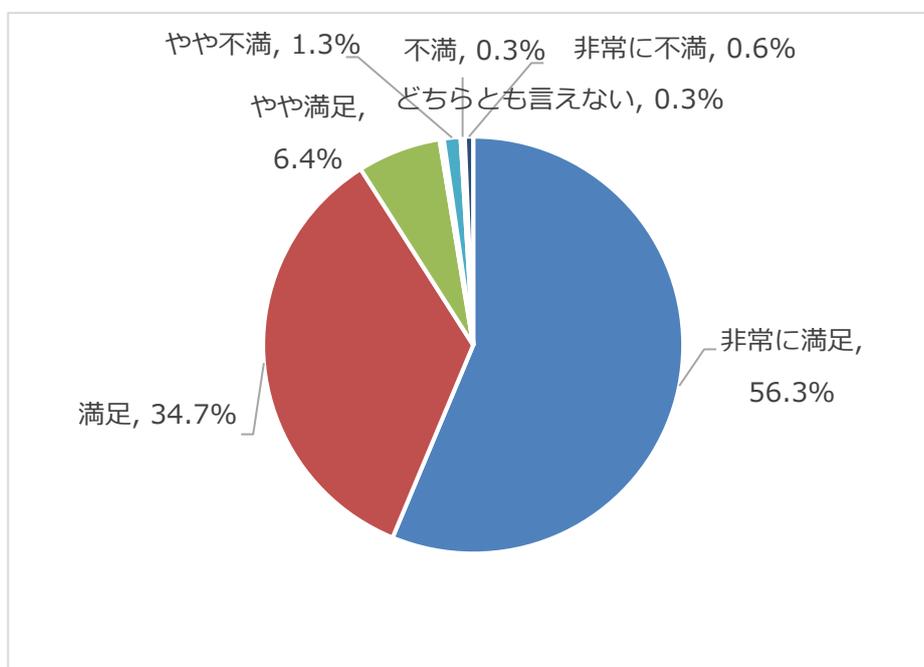
参加者が日頃行っているスポーツとしては、駅伝・マラソンが 77 名で最も多く、次いでグラウンドホッケー（36 名）、ウォーキング（22 名）、サッカー・フットサル（21 名）、野球（14 名）などが上位であった。また日頃特にスポーツを行っていない人が 74 名あったが、それでもこのスポーツイベントに参加しており、今後のスポーツへの関心度及び実施度の高まりが期待される結果と見られる。

4. 事業結果とその評価

4-1. アンケートをもとにした参加・来場者の意向・満足度

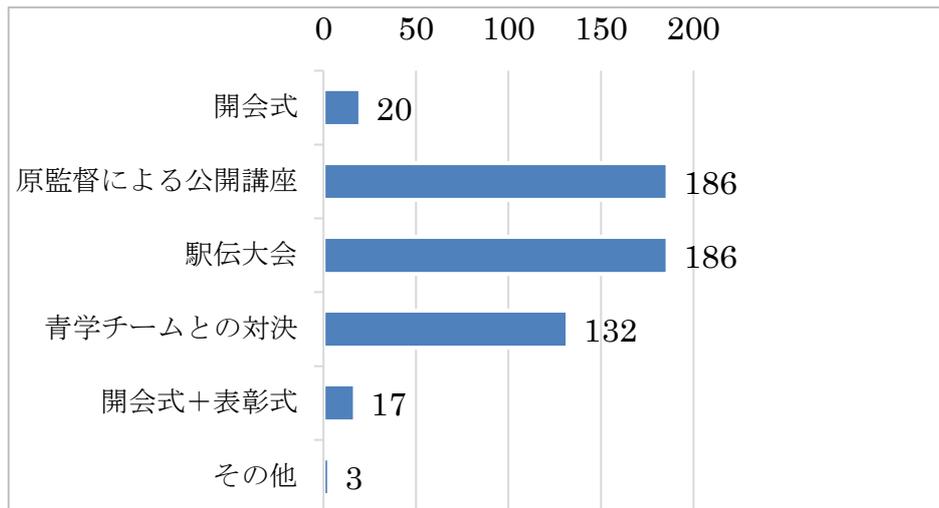
当日の大会運営・大会全般への意向（設問 Q5）に関しては、非常に満足が 56.3%と半数を超え、満足（34.7%）を加えると、90%以上が高い満足という結果となった。運営面では「公開講座と駅伝の両方に参加できて充実できた」「司会の盛り上げがよかった」などのコメントがあがった。不満のコメントとしては、「もっと先に開催情報が欲しかった」などがあがった。

図表-3 参加者評価：当日の大会運営について



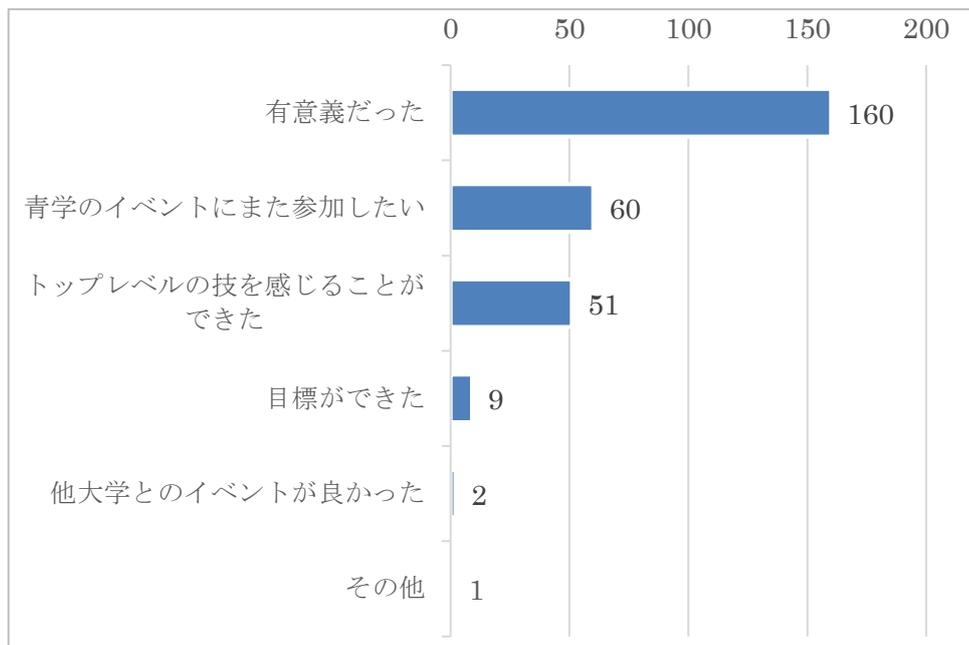
具体的にどのプログラムがよかったか（設問 Q6）については、「原監督による公開講座」「駅伝大会」がいずれも 186 名と高いスコアとなり、ついで「青学チームとの対決」132 名であった。

図表-4 参加者評価：どのプログラムがよかったか



青山学院大学とのイベント開催についての評価（設問一般 Q9）は、「有意義だった」が最も多く 160 名、次いで「青学のイベントにまた参加したい」（60 名）、「トップレベルの技を感じることができた」（51 名）という評価を得た。

図表-5 参加者評価：青山学院大学とのイベントの評価



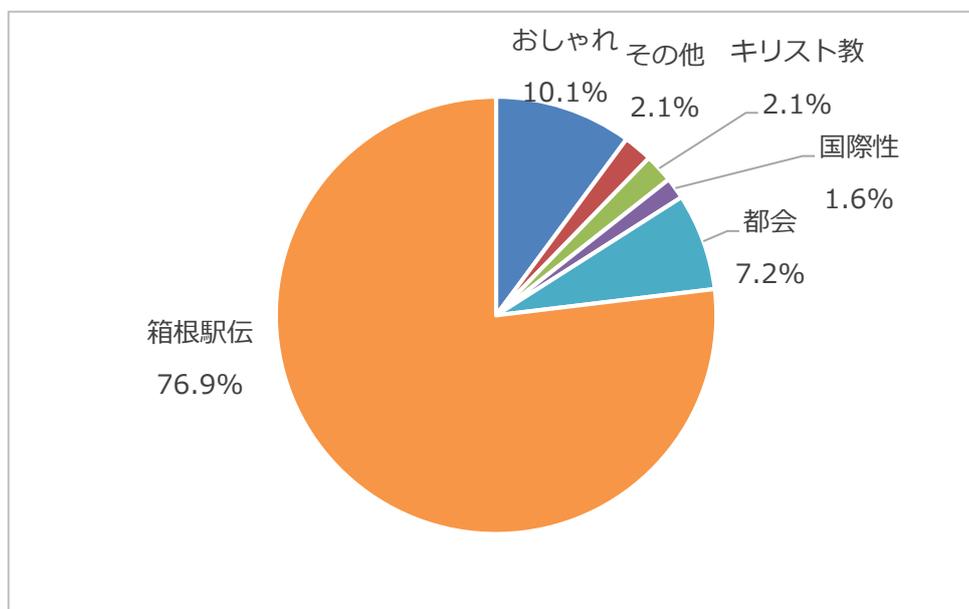
小中学生を対象にした評価（設問小中学生 Q7）でも、「楽しかった」が 49 名とトップで、「トップレベルを感じることができた」（14 名）、「青学が好きになった」（11 名）、「目標ができた」7 名など概ね高い評価であった。

総評として、米原市での開催をどう思うか（設問一般 Q15/小中学生 Q13）については、「開催してよかった」が 93.7%と高い評価を得た。また「市役所にイベントの計画をまたしてほしい」（3.5%）が「他の都市でも構わない」（2.8%）を上回った。

さらに、今後の参加意向として、自由参加枠があったら参加するか（設問一般 Q7）については、「参加したい」（66.7%）が「参加しない」（33.3%）を大きく上回った。また自由参加したい方はどのように参加したいか聞いたところ（設問一般 Q8）、「チームで参加する」（66.7%）が多く、「個人で参加する」（17.9%）や「数人で参加する」（15.4%）を上回った。

住民の方々の青山学院大学についての認知度（設問一般 Q11/小中学生 Q9）は、「知っていた」が 92.3%、「知らなかった」（7.7%）を大きく上回っており、事前から箱根駅伝での結果と伺われる。青山学院大学を知っていた方に聞く青山学院大学のイメージ（設問一般 Q12/小中学生 Q10）では、「箱根駅伝」が 76.9%と高く、次いで「おしゃれ」（10.1%）、「都会」（7.2%）、「基督教」（2.1%）、「国際性」（1.6%）、「その他」（2.1%）などがあげられた。

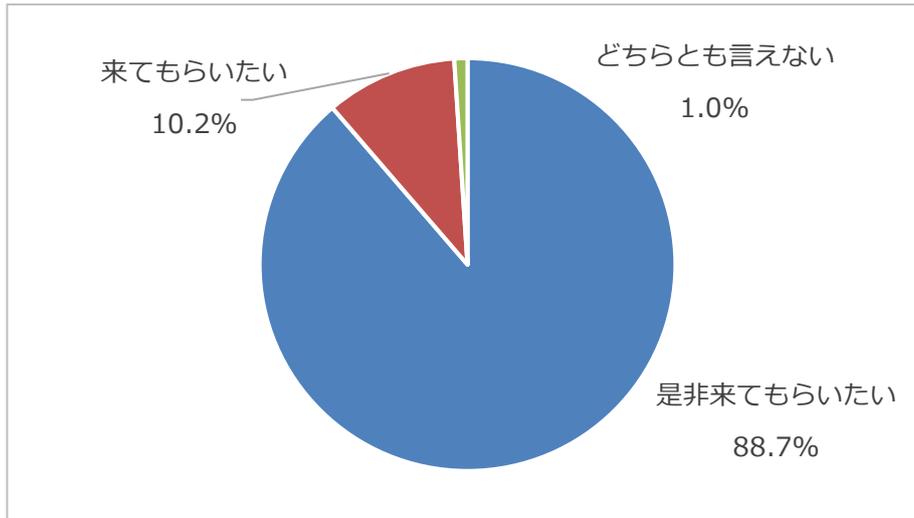
図表-6 参加者評価：青山学院大学のイメージ



原監督の認知は（設問一般 Q10/小中学生 Q8）、「知っていた」が 92.3%と圧倒的に高かった。

またイベント後の青山学院大学のイメージは（設問一般 Q14/小中学生 Q12）は、「とても良くなった」が 71.7%と高く、「良くなった」（25.4%）と合わせて 97%を占めた。来年も青山学院大学に来てもらいたい（設問一般 Q13/小中学生 Q11）では、「ぜひ来てもらいたい」（88.7%）と「来てもらいたい」（10.2%）とほとんどで「どちらとも言えない」がわずか1%で、「来てもらいたくない」は回答ゼロであった。

図表-7 参加者評価：今後の青山学院大学駅伝イベントについての希望



4-2. 米原市の評価

米原市が行った参加者の声収集では、次のような項目があげられる。第一に、本大会が中学生のスポーツ競技力に好影響を与えたということである。すなわち、本大会の開催が中体連の県・ブロック駅伝大会の前に開催されたことで、それらの競技大会に向けて好結果につながったことである。これまでは県大会までブロック大会予選の1回きりであったが、今回の駅伝のおかげで、駅伝シーズンはじめとして楽しく臨めたことが大きいと感じられた。実際に襷渡しも練習になり、特に中学1年生の選手にはとても良い経験となった。結果として、女子参加チームでは、「彦根東チーム」が県4位、「米原チーム」が県5位となり、ともに近畿大会出場となった。また男子参加チームでは、「米原チーム」が優勝し、近畿・全国大会出場となった。その他「彦根東チーム」が県7位、「彦根中央チーム」が県8位となりかなりよい結果をもたらした。今回の駅伝大会出場がいい形で県大会に臨めたと考える。

第二には、小学生にも駅伝が広まったことである。市内すべての小学校が参加し、児童も先生方も駅伝の楽しさが理解できたように感じられる。原監督が出演されているテレビドラマ「陸王」の放送もあり、多くの参加者が、来年も参加したいという気持ちになっているように伺われる。

第三に、市民から、本大会の事前広報がしっかりできていなかったため、「そんなイベントいつあったのか」などの意見があった。参加者や見学者を増やすためには事前の早めからの開催告知が重要と考えられる。今後への課題が明らかになった。

4-3. 媒体の成果

新聞記事パブリシティとしては、「京都新聞」（10月2日付け朝刊）、「滋賀夕刊新聞」（10月3日付け夕刊、10月6日付け夕刊）、「中日新聞」（10月4日付け朝刊）に本大会関連の記事が掲載された。

4-4. 青学選手参加学生の評価

今回の米原駅伝に参加した稲村選手、小野塚選手、木村選手の3選手は、以下のように今回の大会についてコメントした。

「今回の米原駅伝は、地元の方々により陸上競技の魅力や楽しさを伝えられる良い機会になったと思う。地元の方々の手厚い歓迎によって、温かい雰囲気の中楽しく走ることができ、幸せなひと時であった。小学生から大人まで陸上競技を通じて交流する機会はあまりないのでとても有意義なイベントであった。」

「地元の方々の大きな声援や拍手などもあり、にぎやかな雰囲気で行われた。」「原晋監督によるトークショーも、小学生から大人まで幅広い年代に向けられたものであり、和やかな雰囲気の中行われた。」

「様々な年齢層の参加により、明るく楽しい雰囲気であったと感じる。」「駅伝大会とトークショーのどちらが主になるのかを明確にした方が良いと感じた。トークショーと駅伝大会の間の時間が短いため、駅伝大会のアップの時間を確保した方がよい。今後参加人数が増えたら、今回の場所では狭いのではないか。」

「青学生としては、楽しんで走るスタンスか本気で走って大学生のスピードを体験させるスタンスなのかをはっきりさせたほうが良いと思う。」

5. 事業の効果（当初設定の評価項目に沿った評価）

5-1. 有効性

本事業は、準備期間が短い中での初めての大会開催であったが、的確に運営され、上記4で述べたような米原市民を中心とした参加者に高い満足と参加効果を与えることができた。

また運営主体者である米原市にとっても大会運営ノウハウを形成できたとともに、競技成果につながるスポーツ人材の育成、地域住民コミュニティの絆の醸成の面からも有効であったと認められる。

さらに参画した青山学院大学も地域の期待に沿うとともに地域への大学の浸透・評価につながって有効であった。

以上の点から本事業は当初想定した効果を概ね達成したと考えられる。

5-2. 効率性

今回会場とした米原中学の広場及び外周のコースという環境は、学校が複数集積した文教地区で、駅からも近いにも関わらず、走者や応援者の安全確保できる場所が的確に選定されたといえる。また参加者・応援者のための駐車場も確保され円滑に運営されていた。経費的にも予算内で実施され、本事業は、アウトプットの達成度、インプット（投入）、事業期間の計画性、事業費の適性性、事業規模の効率性などについて、当初想定された効果を概ね達成したと考えられる。

5-3. インパクト

本長期目標（地域の社会的ニーズ：少子高齢化対応、サーバント・リーダー育成、大学ブランド力向上）に関するインパクトから分析すると、次のように評価できる。

まず今回参加者状況からみると、地域の企業内コミュニティ及び地域社会への関係性の向上があげられる。実際に地元企業の社会人チームの複数での参加が目立ち、シニア層を含む家族の応援も多く見られた。また小学生に駅伝の認知を高め競技への親近感を高めた。また中学生のスポーツ競技力向上に寄与したと米原市は評価している。すなわち、地域の社会的ニーズ、健康増進、子供・

シニア、は当初の目論み通りであったと考えられる。

一方で、当初の目論見として、個人参加者をチームにする仕組みを作り、駅伝でしか作れない「絆」を育ませるための男女マッチング機能を開発する意図があったが、そのような婚活の成果、さらには子育て環境整備など長期視点の成果に関しては、現時点では明らかになっていない。

大学側の期待への達成度についてが、まず「大学ブランド力向上」について、青山学院大学の大学ブランドや駅伝ブランドは地域の方に認知され十分にブランド発信が発揮されたといえる。さらに踏み込んで、地域に連携し貢献するコミュニティベーストな活動をする大学であることが認知し始めたといえる。

「サーバント・リーダー育成」では、今回は一般学生が不参加のため不明である。次回以降、一般学部生が大会運営にボランティアとして参加するなどのコミュニティベースト・ラーニング（CBL）観点での学生の積極的な関わりに期待したい。

5-4. 持続性

事業効果の持続性については、米原市の意向、さらに地域住民の意向ともに高く、継続的に定例開催される可能性が高い。また他の都市や地域へ応用し横展開することも実現可能性が高く、地域および大学ともに継続の可能性が感じられる。

大学リソースとしても、大会の開催時期によるが、陸上競技部駅伝メンバーは確保できそうであり本事業の実施の持続性は高い。

コストに見合う事業計画や、組織体制の効率性に関して、今回は研究推進部がリードする形で企画、運営、実現されたが、今後の複数展開、年間複数展開にむけては、地域行政・団体との連携や、株式会社 MPandC など運営支援企業との連携などの面で、さらに学内組織体制の整備も必要であろうとみられる。

総括して、このようなスポーツを通じた地域活性化への貢献は青学ならではの駅伝コンテンツ、優秀監督・選手などのリソースであり、青学しかできないものであり、いわば「青学モデル」ということができる。この青学モデルは、今回の参加者の評価アンケート結果でその手ごたえは確実にあり、今後の普及性が十分にあると判断される。

6. 今後に向けた成果と課題（中期視点での可能性と展望）

6-1. 地域活性化視点

地域課題を事前に的確に組み上げ、対応を着々と行うことで、当該開催地域の特性・課題を加味したテーマを設定した駅伝や対象者に特徴を持たせた対応も可能となる。例えば、健康、自然、文教などテーマにした駅伝開催や、地域商店街対抗へ参加者を広げ、飲食・物販テントも拡大など地域商業活性につながる大会運営などがあげられる。

このような地域活性化視点での地域駅伝大会は、青山学院大学学内の研究・教育リソースも活用連携していけば、大いに実現性が高いと思われる。

6-2. 教育視点

今回の実績を踏まえるならば、地域でのスポーツイベント、地域住民との交流を「コミュニティベーストラーニング」（CBL）の手法として体系化整備することも考えられる。今後、青山学院大学

学部生の大会運営や応援などへの参加を増やすとともに、当該地域の地元大学生・高校生との交流接点を増やすなどを試みることにより CBL が活発化し、青山学院大学が CBL の面でも全国に先駆的な大学となっていく可能性が高い。

【別紙1（第三章）】

・参加者アンケート（一般（大人）用）

Q1性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
Q2年代	<input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生 <input type="checkbox"/> 大学生（専門学校生含む） <input type="checkbox"/> 20代 <input type="checkbox"/> 30代 <input type="checkbox"/> 40代 <input type="checkbox"/> 50代 <input type="checkbox"/> 60代 <input type="checkbox"/> 70代以上
Q3お住まい	<input type="checkbox"/> 米原 <input type="checkbox"/> 伊吹 <input type="checkbox"/> 山東 <input type="checkbox"/> 近江 <input type="checkbox"/> 長浜 <input type="checkbox"/> 彦根 <input type="checkbox"/> その他（地域名： _____）
Q4日ごろ行っているスポーツ（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 駅伝・マラソン <input type="checkbox"/> 野球 <input type="checkbox"/> サッカー・フットサル <input type="checkbox"/> 水泳 <input type="checkbox"/> 体操 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="checkbox"/> グラウンドホッケー <input type="checkbox"/> テニス <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="checkbox"/> ラグビー <input type="checkbox"/> フィギュアスケート <input type="checkbox"/> ゴルフ <input type="checkbox"/> ウォーキング <input type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> その他（ _____）
Q5当日の大会運営・大会全般	<input type="checkbox"/> 非常に満足 <input type="checkbox"/> 満足 <input type="checkbox"/> やや満足 <input type="checkbox"/> やや不満 <input type="checkbox"/> 不満 <input type="checkbox"/> 非常に不満（理由 _____）
Q6どのプログラムが良かったですか（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 原監督による公開講座 <input type="checkbox"/> 開会式 <input type="checkbox"/> 駅伝大会 <input type="checkbox"/> 閉会式+表彰式 <input type="checkbox"/> 青山学院大学チームとの対決 <input type="checkbox"/> その他（ _____）
Q7自由参加枠があったら参加するか	<input type="checkbox"/> 参加したい <input type="checkbox"/> 参加しない
Q8自由参加したいと答えた方	<input type="checkbox"/> 個人で参加する <input type="checkbox"/> チームで参加する <input type="checkbox"/> 数人で参加する
Q9青山学院大学とのイベントはどうでしたか（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 有意義だった <input type="checkbox"/> トップレベルの技を感じることができた <input type="checkbox"/> 目標ができた <input type="checkbox"/> 青山学院大学のイベントにまた参加したい <input type="checkbox"/> 他大学とのイベントがよかった <input type="checkbox"/> その他（ _____）
Q10原監督を知っていましたか	<input type="checkbox"/> 知っていた <input type="checkbox"/> 知らなかった
Q11青山学院大学を知っていましたか	<input type="checkbox"/> 知っていた <input type="checkbox"/> 知らなかった
Q12知っていたと答えた方の青山学院大学のイメージ（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 箱根駅伝 <input type="checkbox"/> おしゃれ <input type="checkbox"/> 都会 <input type="checkbox"/> 国際性 <input type="checkbox"/> キリスト教 <input type="checkbox"/> その他（ _____）
Q13来年も青山学院大学に来てもらいたいですか	<input type="checkbox"/> 是非来てもらいたい <input type="checkbox"/> 来てもらいたい <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> 来てもらいたくない（理由： _____）
Q14イベント後の青山学院大学のイメージ	<input type="checkbox"/> とても良くなった <input type="checkbox"/> 良くなった <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> 悪くなった（理由： _____）
Q15米原市での開催はどうでしたか	<input type="checkbox"/> 開催してよかった <input type="checkbox"/> 開催しなければよかった <input type="checkbox"/> 他の市でもかまわない <input type="checkbox"/> 市役所にイベントの企画をまたしてもらいたい <input type="checkbox"/> その他（ _____）
Q16次回開催するとしたら、どこの場所が良いですか	<input type="checkbox"/> 米原 <input type="checkbox"/> 伊吹 <input type="checkbox"/> 山東 <input type="checkbox"/> 近江 <input type="checkbox"/> 長浜 <input type="checkbox"/> 彦根 <input type="checkbox"/> その他（地域名： _____）

【別紙2（第三章）】

・参加者アンケート（小中学生用）

Q1性別	<input type="checkbox"/> 男性 <input type="checkbox"/> 女性
Q2年代	<input type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生
Q3お住まい	<input type="checkbox"/> 米原 <input type="checkbox"/> 伊吹 <input type="checkbox"/> 山東 <input type="checkbox"/> 近江 <input type="checkbox"/> 長浜 <input type="checkbox"/> 彦根 <input type="checkbox"/> その他（地域名： ）
Q4日ごろ行っているスポーツ（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 駅伝・マラソン <input type="checkbox"/> 野球 <input type="checkbox"/> サッカー・フットサル <input type="checkbox"/> 水泳 <input type="checkbox"/> 体操 <input type="checkbox"/> バスケットボール <input type="checkbox"/> グラウンドホッケー <input type="checkbox"/> テニス <input type="checkbox"/> バレーボール <input type="checkbox"/> ラグビー <input type="checkbox"/> フィギュアスケート <input type="checkbox"/> ゴルフ <input type="checkbox"/> ウォーキング <input type="checkbox"/> 行っていない <input type="checkbox"/> その他（ ）
Q5当日の大会	<input type="checkbox"/> 非常に満足 <input type="checkbox"/> 満足 <input type="checkbox"/> やや満足 <input type="checkbox"/> やや不満 <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> 不満 <input type="checkbox"/> 非常に不満（理由 ）
Q6どのプログラムが良かったですか（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 原かんとかによる授業 <input type="checkbox"/> 開会式 <input type="checkbox"/> 駅伝大会 <input type="checkbox"/> 閉会式+表彰式 <input type="checkbox"/> 青山学院大学チームとの対決 <input type="checkbox"/> その他（ ）
Q7青山学院大学とのイベントはどうでしたか（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 楽しかった <input type="checkbox"/> トップレベルを感じることができた <input type="checkbox"/> 目標ができた <input type="checkbox"/> 他の大学とのイベントがよかった <input type="checkbox"/> 青山学院大学が好きになった <input type="checkbox"/> 他にどんなイベントをやってみたいか（ ）
Q8原監督を知っていましたか	<input type="checkbox"/> 知っていた <input type="checkbox"/> 知らなかった
Q9青山学院大学を知っていましたか	<input type="checkbox"/> 知っていた <input type="checkbox"/> 知らなかった
Q10知っていたと答えた方の青山学院大学のイメージ（複数回答可）	<input type="checkbox"/> 箱根駅伝 <input type="checkbox"/> おしゃれ <input type="checkbox"/> 都会 <input type="checkbox"/> 英語 <input type="checkbox"/> キリスト教 <input type="checkbox"/> その他（ ）
Q11来年も青山学院大学に来てもらいたいですか	<input type="checkbox"/> ぜひ来てもらいたい <input type="checkbox"/> 来てもらいたい <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> 来てもらいたくない（理由： ）
Q12イベント後の青山学院大学のイメージ	<input type="checkbox"/> とても良くなった <input type="checkbox"/> 良くなった <input type="checkbox"/> どちらとも言えない <input type="checkbox"/> 悪くなった（理由： ）
Q13米原市での開催はどうでしたか	<input type="checkbox"/> やってよかった <input type="checkbox"/> やらなければよかった <input type="checkbox"/> 他の市でもかまわない <input type="checkbox"/> 市役所にイベントの企画をまたしてもらいたい <input type="checkbox"/> その他（ ）
Q14次回開催するとしたら、どこの場所が良いですか	<input type="checkbox"/> 米原 <input type="checkbox"/> 伊吹 <input type="checkbox"/> 山東 <input type="checkbox"/> 近江 <input type="checkbox"/> 長浜 <input type="checkbox"/> 彦根 <input type="checkbox"/> その他（地域名： ）

第四章 大学スポーツ施設を拠点とするプロバスケットチームの ホームアリーナ化への更なる取組

経営学部 三村優美子（学部長）、芳賀康浩、中邨良樹、山下勝、横山暁、尹志煌

1. はじめに

本学は2015年に渋谷区および（株）日立製作所との産学連携の取り組みとして、本学記念館（以下、体育館）をBリーグのサンロッカーズ渋谷（2016-2017シーズンまでは日立サンロッカーズ渋谷・東京）のホームアリーナとして使用することとなった。2016-2017シーズンは、平均約2300人の観客を動員する実績を残したが、その効果検証までは至らず、研究機関としての課題を残す形となった。そこで、本学経営学部の三村学部長を代表とする経営学部の教員によって、「大学スポーツ施設を拠点とするプロバスケットチームのホームアリーナ化への更なる取り組み」として、調査・研究を行った。

調査・研究は、(1) 観戦者へのアンケート調査、(2) 大学生のスポーツ観戦調査、(3) 本学学生を対象としたBリーグの試合観戦前後における意識調査、の3つを行った。(1) 観戦者へのアンケート調査では、本学体育館における試合での調査に加え、他のチームのホームアリーナにおいても調査を行い、観戦者の個人属性、会場の立地条件や施設設備による観戦者の態度や満足度を把握するとともに、今後、公共施設や民間施設、大学施設等をプロスポーツイベントで利用する際の参考となる知見を得ることを目的とした。また、(2) 大学生のスポーツ観戦調査では、本学を含む関東の大学及び関西の大学生に対し、プロスポーツおよび大学の体育会の試合の生観戦やTV観戦の経験や意向を調査するとともに、サンロッカーズ渋谷が本学体育館をホームアリーナとして使用していることの認知を聞くことで、大学生世代のプロスポーツ・大学スポーツへの接触・関心を把握することを目的とした。最後に(3) 本学学生を対象としたBリーグの試合観戦前後における意識調査では、本学学生を対象として、Bリーグの試合を観戦してもらい、観戦前後における興味関心の変化を調べることで、潜在的にスポーツを観戦する意向があるのかどうかを把握しようとした。これらの調査・研究により、大学の体育館をBリーグのホームアリーナとして使用すること、より広義には大学の施設をプロスポーツの試合として使用することの大学側、プロチーム側、観客側（学生側）のメリットについて把握し、他の大学等がプロチームに施設貸し出しを行う際の一規準となる示唆を得ることを目的とした。

次節以降、順に結果の報告を行う。

なお、本章で行った調査・研究において、上記(3)の調査および報告書の執筆は経営学部教授の中邨良樹が、本取り組みの統括、(1)および(2)の調査、本章の全体的な執筆（(3)の調査の部分は除く）は経営学部准教授の横山暁が担当した。

2. 観戦者へのアンケート調査

2-1. 調査概要

観戦者へのアンケート調査（以下、観戦者調査）は、サンロッカーズ渋谷及び対戦チームの協力の下、2017年10月28日（土）、29日（日）に本学体育館にて開催されたサンロッカーズ渋谷 vs. 横浜ビー・コルセアーズ戦、2017年11月13日（月）、14日（火）に北海きたえーるにて開催されたレバンガ北海道 vs. サンロッカーズ渋谷戦、2017年12月16日（土）、17日（日）に府民共済

SUPER アリーナ（舞洲アリーナ）にて開催された大阪エヴェッサ vs. サンロッカーズ渋谷戦にて観客に対するアンケート調査を行った。調査では、当日の観戦理由、同行者、応援チーム、観戦回数、他会場での観戦経験、試合会場、施設・サービスの満足度、および個人属性を調査した（詳細は別紙1参照）。これらの調査項目は、事前に行った現地調査やチームへのヒアリングを踏まえて決定した。

なお、調査は来場者に QR コードを記載した用紙を配布する形式でのインターネット調査であり、有料入場者数がそれぞれ 2,011 人、1,832 人、3,899 人、3,265 人、2,190 人、3,373 人に対し、有効回答数が 466 件、388 件、659 件、584 件、330 件、580 件、回収率は 23.2%、21.2%、16.9%、17.9%、15.1%、17.2%であった。

また、各チームおよびアリーナの立地等の詳細を表1に、建物の外観、ホワイエ、アリーナ等の様子を図1～図6²に示す。

表1 各会場の詳細

チーム	サンロッカーズ渋谷	レバンガ北海道	大阪エヴェッサ
チーム母体	日立製作所男子バスケットボール部	北海道バスケットボールクラブ	ヒューマンプランニング (bjリーグ出身クラブ)
会場名称	青山学院記念館	北海きたえーる (北海道立総合体育センター)	府民共済 SUPER アリーナ (舞洲アリーナ)
所在地	渋谷区渋谷 4-4-25	札幌市豊平区豊平 5 条 11 丁目 1-1	大阪府大阪市此花区北港 緑地 2-2-15
会場の運営主体	学校法人 青山学院	北海道	大阪市 (事業主体) ヒューマンプランニング (管理運営・大阪エヴェッサの運営法人)
最大観客席数	約 6,000 人	約 10,000 人	約 7,000 人
最寄駅	東京メトロ 表参道駅 JR・東京メトロ・京王線・東急線 渋谷駅	地下鉄東豊線 豊平公園駅	JR ゆめ咲線 桜島駅 JR 環状線 西九条駅
最寄駅からのアクセス	表参道駅 徒歩 5 分 渋谷駅 徒歩 10 分	徒歩 4 分 (地下連絡通路)	桜島駅 バス 15 分 西九条駅 バス 35 分
駐車場	なし (近隣を利用)	なし (近隣を利用)	あり (有料・約 400 台)
特記事項	会場内での飲酒禁止、屋台等の火気を用いた調理不可 観客席がコの字型ではなく、コの字型	再入場不可 4 面天井吊型スコアボードあり	チーム運営法人がアリーナを管理運営 4 面天井吊型スコアボードおよびビジョンあり

※ B. LEAGUE 公式サイト (<https://www.bleague.jp/>)、各会場の公式サイトより筆者作成

² 調査当日撮影したものではないものも含まれている。



図1 青山学院記念館 外観 (2017年10月7日撮影)



図2 アリーナの様子 (2017年12月23日撮影)



図3 北海きたえーる 入場口 (2017年10月16日撮影)



図4 アリーナの様子 (2017年10月16日撮影)



図 5 府民共済 SUPER アリーナの外観（2017 年 11 月 4 日撮影）



図 6 アリーナの様子（2017 年 12 月 16 日撮影）

2-2. 調査結果

各会場における調査の集計結果について、特に特徴的なものを中心に示す。

まず回答者の個人属性や、観戦同行者についての集計結果を図7～図9に示す。図7は回答者の男女比を示したものである。サンロッカーズの試合およびエヴェッサの試合においては、男女比はおおむね同数であるのに対し、レバンガの試合においては女性比率が高いことがわかる。図8は年齢構成比である。レバンガの試合において10代の観戦者が多いことが分かる。アンケート調査をインターネットで行っているという特性上、10代の回答比率が20代～50代と比較して多いとは考えづらいため実際は10代の観戦者比率はこれ以上に高いことが推察される。これは、小学生のチケット価格が500円と設定されていること、女性の20代～40代の回答者数が多いことから、母親と子供での観戦傾向が強いと考えられる。図9は回答者が誰と来たかを聞いた結果である。サンロッカーズの試合においては一人での観戦者比率が多く、レバンガの試合においては友人との観戦が多い傾向がみられる。さらにエヴェッサの試合においては子供連れの家族の比率が高い。この原因の一つとして、府民共済 SUPER アリーナは車ででの来場が可能である影響があるのではないかと推察されるが、より詳細な追加調査が必要であると考えている。

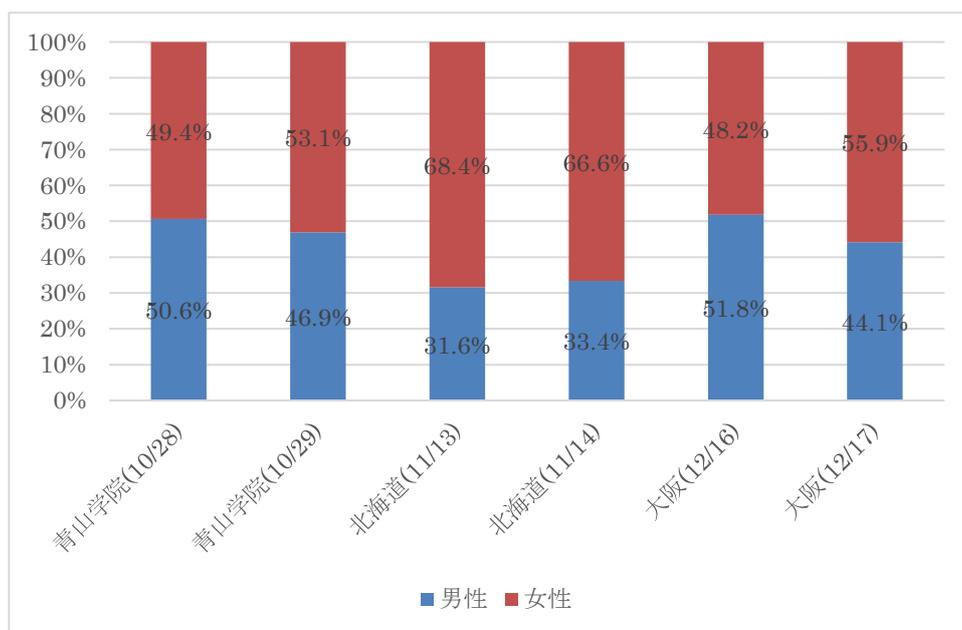


図7 観戦者男女比率



図 8 観戦者年代比率

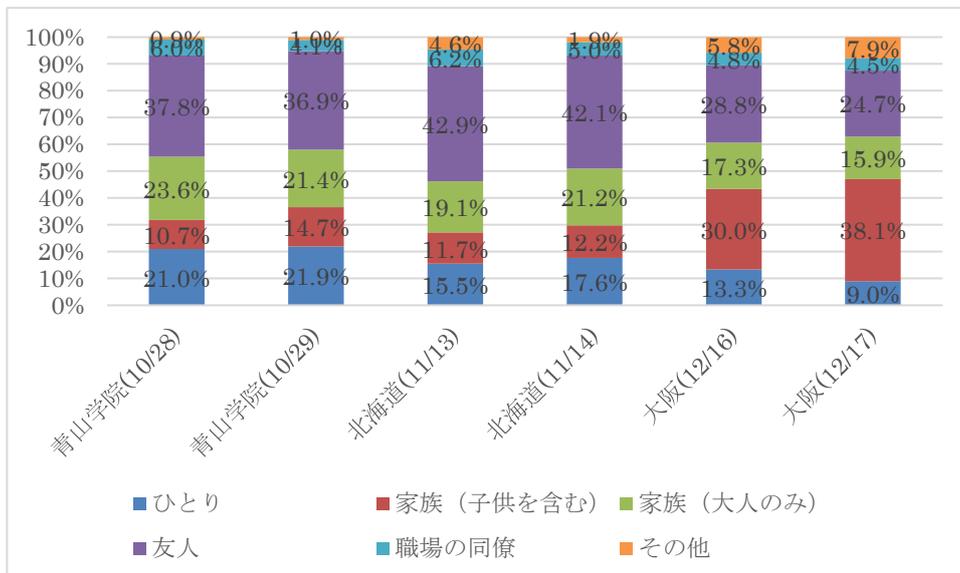


図 9 観戦同行者比率

次に、回答者の観戦意向等についての集計結果を図 10～図 12 に示す。回答者の観戦回数についてまとめたものが図 10 である。B リーグは 2016 年に開始され、今シーズンが 2 年目であり、調査日はシーズンの序盤～中盤にかけて行われた。それぞれの調査において初めて観戦した方が一定数いる一方、10 回以上観戦している方が多く、B リーグのリピーターが非常に多いことが分かる。過去の観戦経験を聞いた結果が図 11 である。回答対象は、これまでの観戦回数の質問（結果は図 10）において「今回が初めて」と答えた方を除く回答者である。この結果を見ると、多くの観戦者が過去に同一会場での観戦経験があり、逆に過去に 1 回以上観戦経験はあるが、調査実施日に初めて当該会場で観戦した方は非常に少ないことが分かる。特に北海道は、過去に北海きたえーるで観戦経験がない人は大変少ないことが分かる。さらに「過去に当該会場で観戦経験がある人」に観戦回数を聞いた結果が図 12 である。半数以上が 6 回以上観戦経験があるという結果になった。特に北海道においては約 65%が 6 回以上という結果となり、ヘビーリピーターが多いということが分かる。

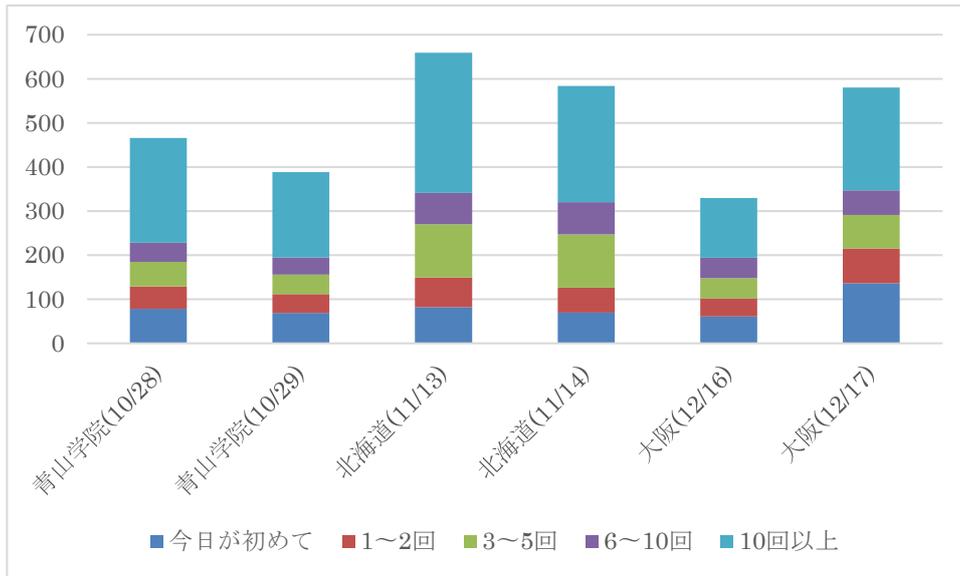


図 10 観戦回数

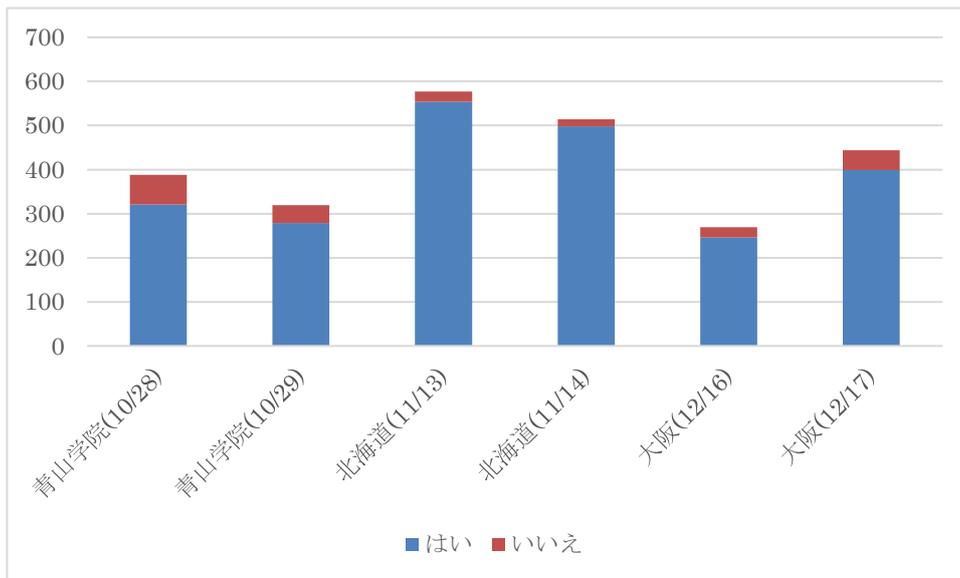


図 11 当該会場での観戦経験

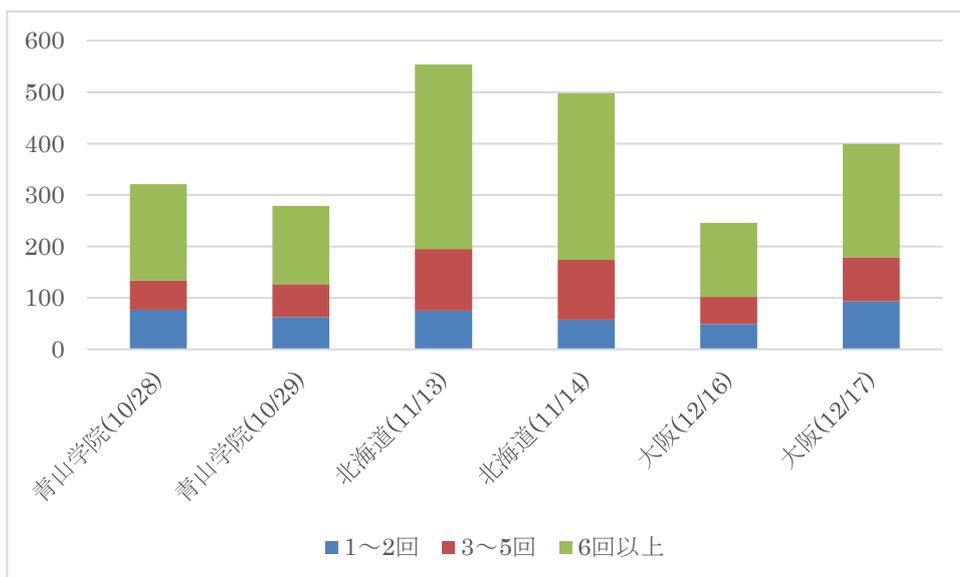


図 12 当該会場での回数

さらに、ホームチームのファンに限定して他会場での観戦経験を集計した結果が図 13 である。サンロッカーズファンやエヴェッサファンにおける当該アリーナ以外の会場での観戦経験がある方の割合が多い一方、レバンガファンにおける北海きたえーる以外での観戦経験のある方の割合はおよそ半分とかなり少ない割合となった。これは、サンロッカーズにおいては、墨田区総合体育館でもホームゲームを行っていることに加え、千葉ジェッツ（船橋アリーナ）、アルバルク東京（駒沢オリンピック公園総合運動場体育館・アリーナ立川立飛）、川崎ブレイブサンダース（川崎市とどろきアリーナ）、横浜ビー・コルセアーズ（横浜国際プール）が近隣県に存在すること、同様にエヴェッサにおいても滋賀レイクスターズ（ウカルちゃんアリーナ）、京都ハンナリーズ（ハンナリーズアリーナ(西京極)）、西宮ストークス（西宮市立中央体育館）が近隣県に存在するため、これらの会場へのアクセスが容易である一方、レバンガ以外のチームで北海道を本拠地とする Bリーグのチームは存在しないため、他会場で観戦することが難しい状況であると考えられることから、本結果は妥当な結果であったと考えられる。

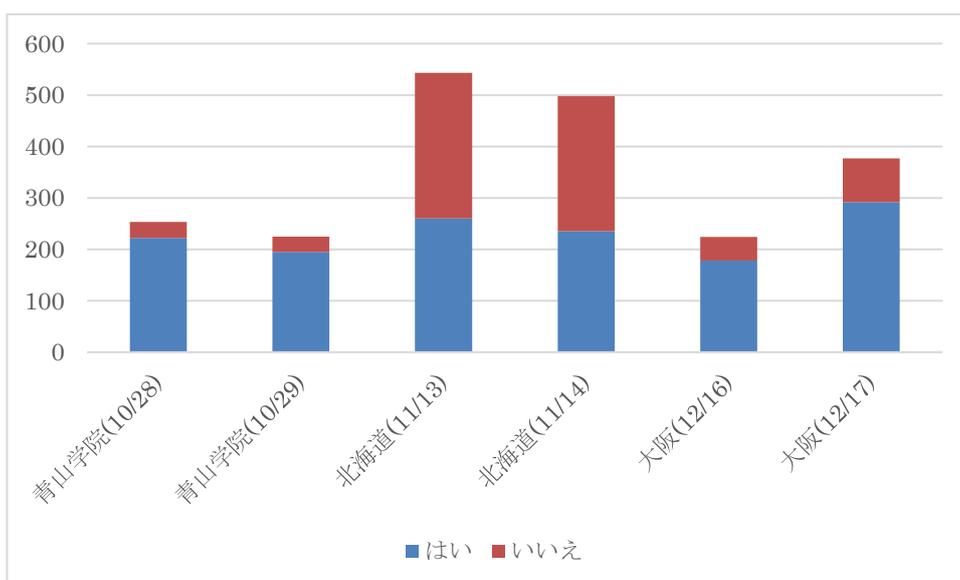


図 13 他会場での観戦経験（ホームチームファン）

各試合会場へのアクセスを聞いた結果をまとめたものが図 14 である。本学体育館と北海きたえーるは会場へのアクセスの満足度が高い一方、府民共済 SUPER アリーナは「非常に満足」が少なく、「どちらともいえない」や「やや不満」が多い結果となった。表 1 に示したように、公共交通機関を利用する場合、本学体育館と北海きたえーるは最寄駅から徒歩数分であるのに対し、府民共済 SUPER アリーナは最寄り駅からバスであり、自家用車を利用する場合も当該会場は臨海部に位置され、大阪の市街地や住宅街から離れていることから、満足度が低くなったと考えられる。

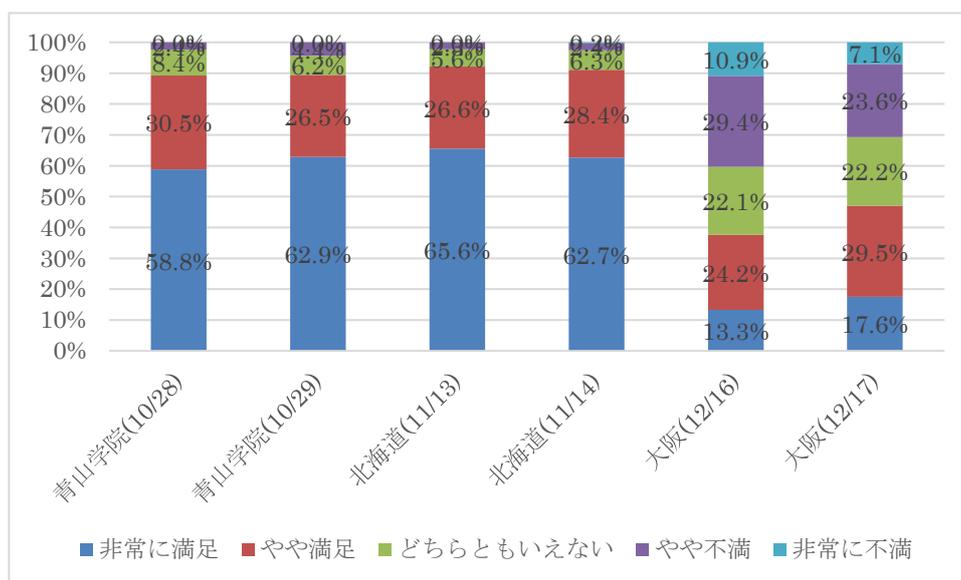


図 14 会場へのアクセス

飲食販売やグッズ販売について調査した結果を図 15～18 に示す。図 16 や図 18 の飲食物やグッズの価格は北海道の満足度がやや高く、本学体育館での満足度がやや低いと結果となった。一方図 15 や図 17 に示した飲食物やグッズの品ぞろえについては、北海道および大阪の満足度に比べ、本学体育館の満足度が著しく低い結果となった。これは、北海きたえーるではロビーでの飲食物やグッズの販売が充実しており、また、府民共済 SUPER アリーナでは、ロビーでの飲食物やグッズの販売に加え、飲食物の販売においては施設の外での屋台が充実している。一方、本学体育館は場所の制約に加え消防法等の制約もあり、調理済み飲食物（弁当等）のみの販売であり、また飲食物・グッズの販売はアリーナでの販売となっているため、店舗面積も狭いことが影響しているものと考えられる。

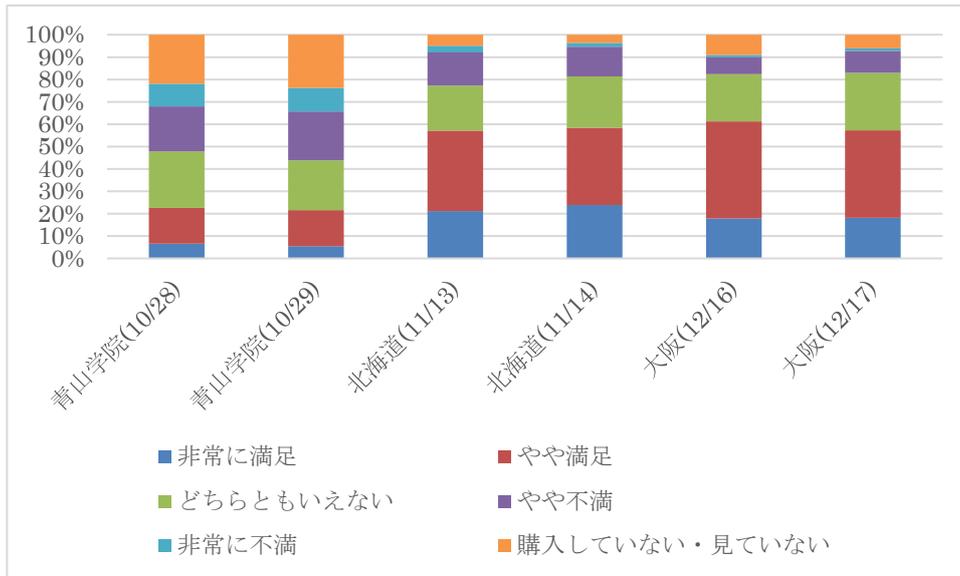


図 15 飲食物の品揃え

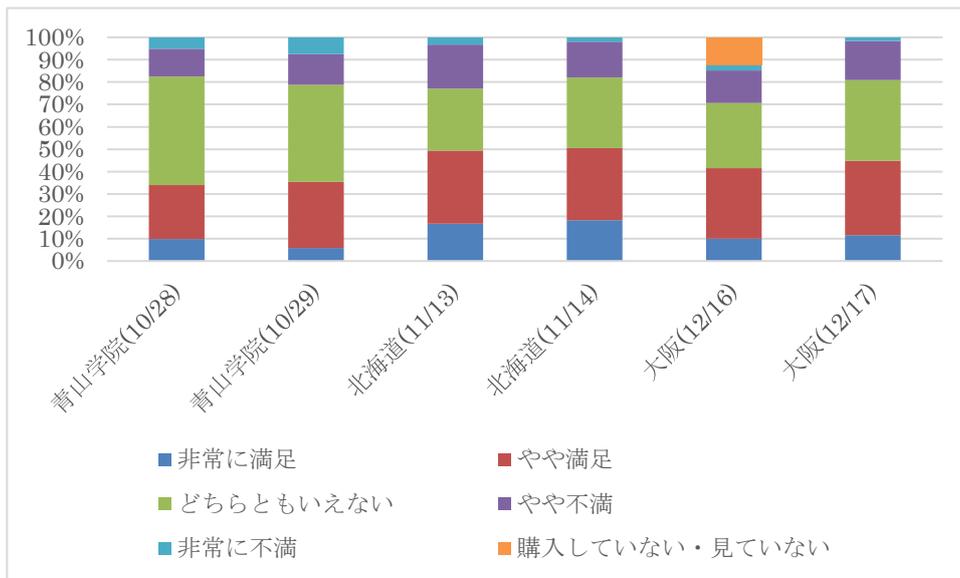


図 16 飲食物の価格

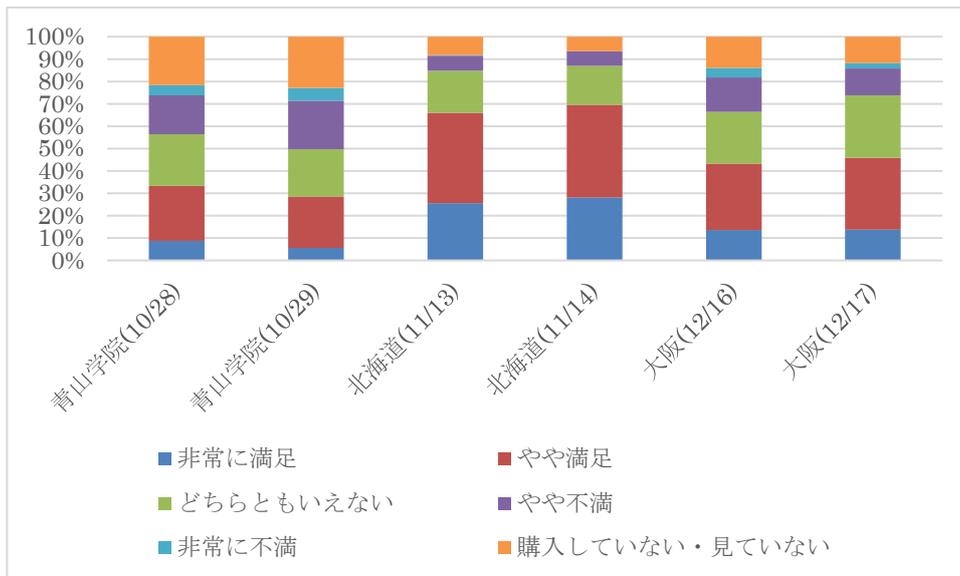


図 17 グッズの品揃え

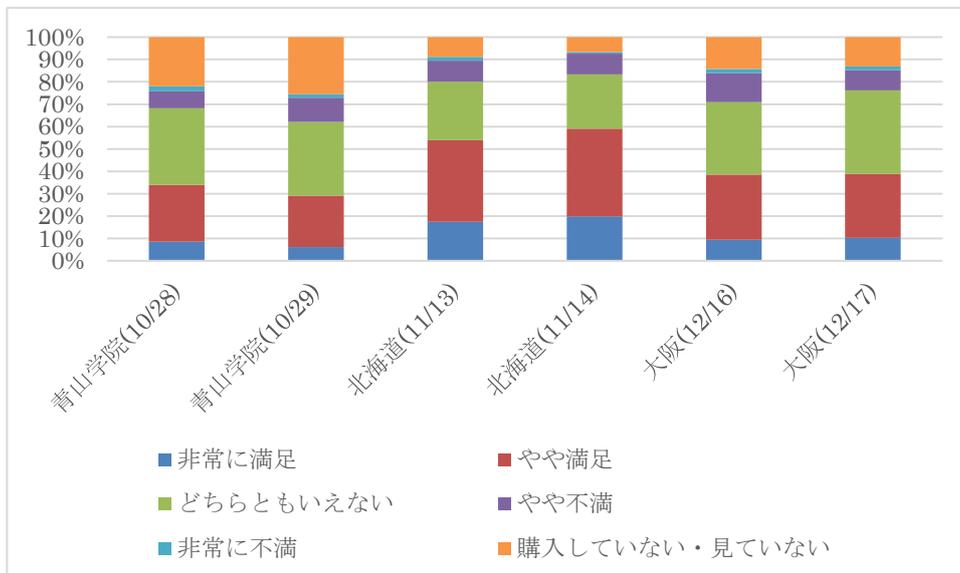


図 18 グッズの価格

また、それぞれの会場についての意見を聞いた結果について簡単にまとめる。本学記念館では「アクセスの良さ」を挙げる意見が多かった一方、設備面（座席や照明、モニター、トイレの数）についてのデメリットや改善を求める意見、飲食の充実を求める意見、特に「飲酒禁止」についての意見が多数みられた。北海きたえーるでは「アクセスの良さ」を挙げる意見が多数みられた一方、「洋式トイレが少ない」、「ゴミ箱が少ない」ことを挙げる意見も多数みられた。また入場時の混雑の改善を求める意見も見られた。さらには「会場使用料金が高い」とチーム運営を心配する意見もあった。府民共済 SUPER アリーナでは「会場の雰囲気は良い」という意見がある一方、「アクセスが不便」、「バスを増発してほしい」、「駐車場代が高い」というアクセスに関するデメリットを挙げる意見が多数を占めた。また「トイレの数を増やしてほしい」という意見も見られた。また、「音響が大きい」という意見も見られた。

さらに、本学記念館の調査でのみ質問を実施した「サンロッカーズは青山学院大学の体育館をホームコートとして利用していますが、プロスポーツチームが大学の施設をホームコート（ホームグラウンド）とすることをどう思いますか？」（自由回答）では、2日間で実に530件を超える回答が得られた。概ね「良い」「好意的に思う」といったポジティブな回答が多くみられ、特に「産学連携」「産学共同」の面に触れてポジティブにとらえている回答が見られた。また、立地面でも好意的にとらえている回答が多くみられた。一方で、「プロチームなのに情けない」という意見や、設備面や演出面で他会場に見劣りする点のデメリットをあげる回答も見受けられた。また、大学との交流を求める意見や、サンロッカーズに本学出身者が所属していることに触れ、交流があったら良いのではないかと、という意見も見受けられた。番外編としては「子どもが、青学に行きたいから勉強するようになりました。」や「学食が利用できる」といった「青山学院大学に入れること」を1つの目的にしているという回答も見受けられ、本学体育館を利用することの間接的な面での効果もあることが分かった。

2-3. 本節のまとめ

本節では、Bリーグの試合会場にて観戦者調査を行った結果のうち、特に本事業において注目すべき点についての報告を行った。アンケート調査前に行った現地調査より、本学は都心、特に渋谷・表参道といった繁華街の近くにあり、交通のアクセスが大変便利である一方、本学体育館は、大学体育館という特性上、客席や設備面での制約が多いというデメリットがあると考えられた。北海きたえーるは地下鉄直結ということでアクセスは良く、飲食物も充実していると考えられた。府民共済 SUPER アリーナは設備や飲食物は充実している一方、アクセスが悪いと考えられた。調査の結果、これらは予想通りではあったが、他会場での試合観戦経験の有無でさらに集計を行うなど、今後より詳細な分析をし、また必要に応じて再度調査を行うこと、さらに他会場でも調査を行うことで、本学体育館のメリット・デメリットを明確にし、大学体育館をBリーグや他のプロスポーツに貸し出す際の規準となる示唆を得ていきたいと考えている。特に自由回答の結果を分析することは、多くの示唆が含まれていると考えられる。今後、テキストマイニング手法を用いた分析を行うなど、分析を継続していきたいと考えている。

3. 大学生のスポーツ観戦調査

3-1. 調査概要

大学生のスポーツ観戦調査（以下、スポーツ観戦調査）は、関東・関西在住の大学生に対し、プロスポーツのスタジアム・アリーナやTVでの観戦経験、観戦意向、Bリーグの認知および観戦経験・観戦回数、観戦意向、大学体育会スポーツの観戦経験・観戦回数、回答者のスポーツ経験等を調査した。調査は株式会社マクロミルのモニターおよびアンケートシステムを利用し、2017年12月16日（土）から18日（月）の3日間実施した。調査内容は別紙2に示す。有効回答者数は839名であり、回答者の大学および性別は表2のとおりである。なお、これらの大学の選定に関しては、関東および関西在住で大学生相当の年齢のマクロミルのモニターに対して事前に所属大学名を調査し、その上で有効回答数が10件を超えると想定される大学を選定したものである。

3-2. 調査結果

まずプロスポーツのスタジアム・アリーナ等における観戦経験（以下、生観戦経験）についての結果を図19に示す。プロ野球やJリーグの観戦経験において「頻繁に観戦する」、「たまに観戦する」という回答が20%前後であるのに対し、他のプロスポーツは10%未満であった。またMLBやMBA、NFLといったアメリカプロスポーツの生観戦経験があるという回答も一定数あり、BリーグやVリーグの生観戦経験と大きな差がない結果であった。

プロスポーツの生観戦経験がない回答者に、生観戦をしてみたいプロスポーツを複数回答可で聞いた結果が図20である。生観戦経験と同様にプロ野球やJリーグの生観戦意向が多く、続いてVリーグやプロテニスが多い結果となった。しかしながら生観戦意向がないという回答が圧倒的に多く、これまで観戦経験がない学生の多くは継続して観戦意向がないということも分かった。

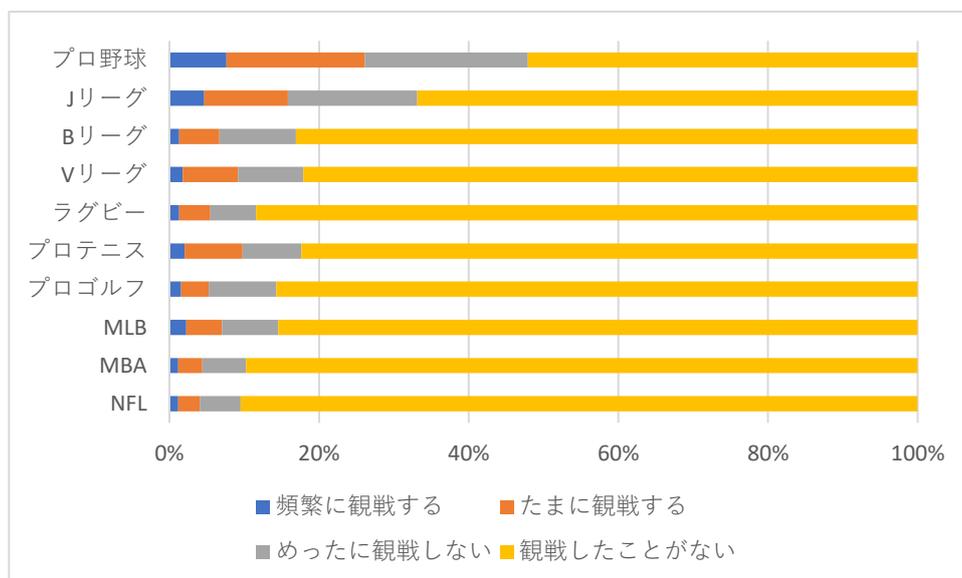


図19 プロスポーツの生観戦経験

表 2 回答者の所属大学と性別

大学名	男性	女性	総計
東京大学	8	10	18
筑波大学	3	9	12
千葉大学	6	15	21
東京学芸大学	4	7	11
首都大学東京	6	9	15
青山学院大学	11	14	25
神奈川大学	4	11	15
慶應義塾大学	13	21	34
國學院大學	3	9	12
駒澤大学	6	10	16
上智大学	7	20	27
専修大学	9	10	19
中央大学	14	17	31
帝京大学	6	9	15
東海大学	11	8	19
東京理科大学	10	12	22
東洋大学	11	18	29
日本大学	19	35	54
法政大学	10	24	34
明治大学	15	21	36
明治学院大学	4	15	19
立教大学	7	19	26
早稲田大学	33	31	64
京都大学	18	10	28
大阪大学	7	15	22
神戸大学	7	12	19
大阪府立大学	4	5	9
大阪市立大学	6	5	11
関西大学	13	23	36
関西学院大学	10	16	26
近畿大学	14	16	30
神戸学院大学	5	7	12
同志社大学	6	25	31
立命館大学	7	17	24
龍谷大学	6	11	17
総計	323	516	839

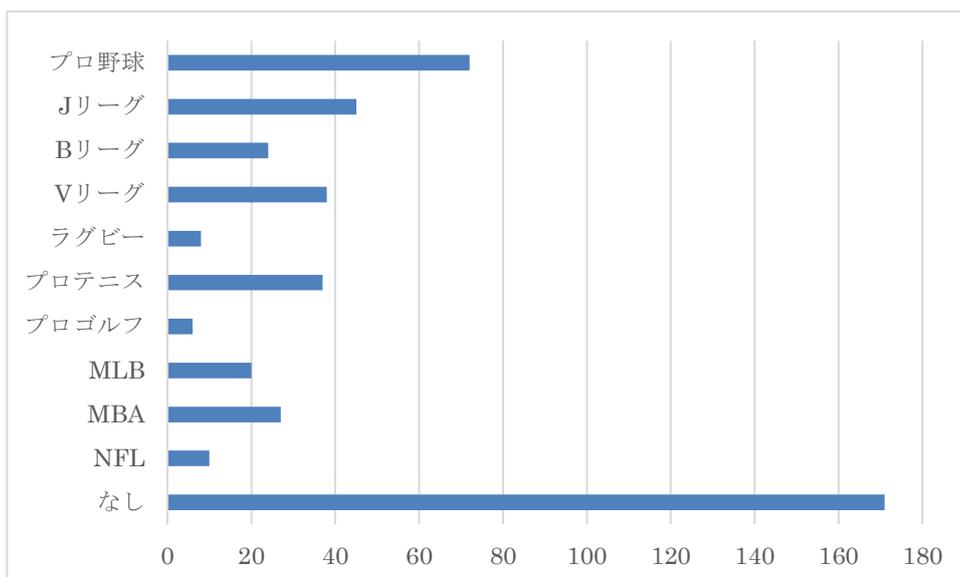


図 20 プロスポーツ生観戦の意向

同様にプロスポーツのTVでの観戦経験（以下、TV観戦経験）を調査した結果が図21である。「頻繁に観戦する」、「たまに観戦する」を合わせた割合を見ると、プロ野球、Jリーグが多く、続いてプロテニスやVリーグが多いことが分かる。プロ野球やJリーグはそれぞれのシーズンにおいて地上波やBSで頻繁に放送がされており、TV観戦経験が多いことは容易に理解できる。またプロテニスも、近年の錦織圭選手の活躍等により注目され、BSNHKを中心に放送されることがありTV観戦経験が増えていると推察される。Vリーグに関してもBSNHKを中心に放送されており、一定数のTV観戦経験者がいることが分かる。一方で、Bリーグに関しては放送の絶対数が少ないことが結果に反映されていると考えられる。さらに、土曜日、日曜日に地上波で頻繁に放送されているプロゴルフのTV観戦経験は少ないことが分かる。

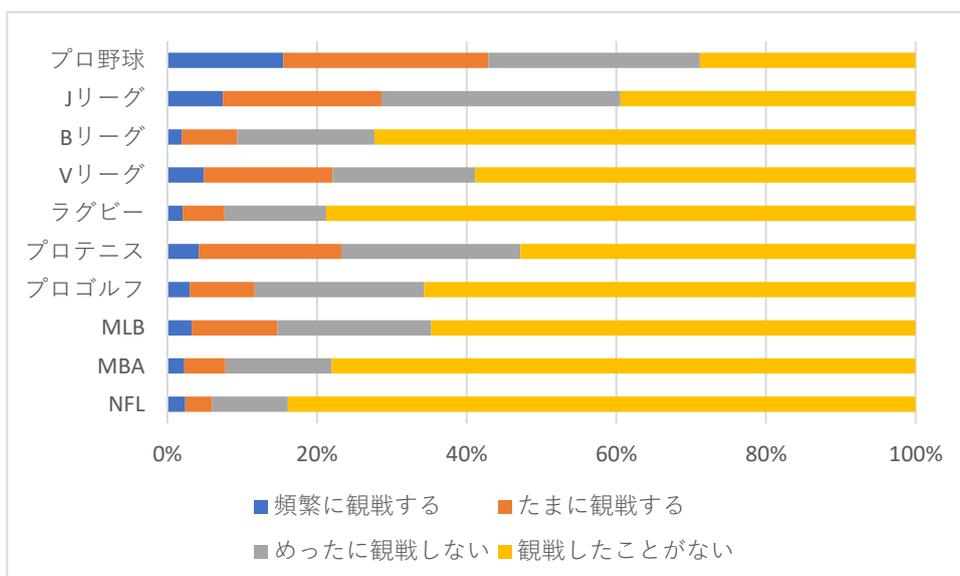


図 21 プロスポーツのTV観戦経験

さらに、TV 観戦の経験がない回答者に、TV 観戦をしてみたいプロスポーツを複数回答可で聞いた結果が図 22 である。圧倒的に観戦したいスポーツがない回答が多く、これまで生観戦も TV 観戦もしていない学生は、継続して観戦する意向がないことが分かる。

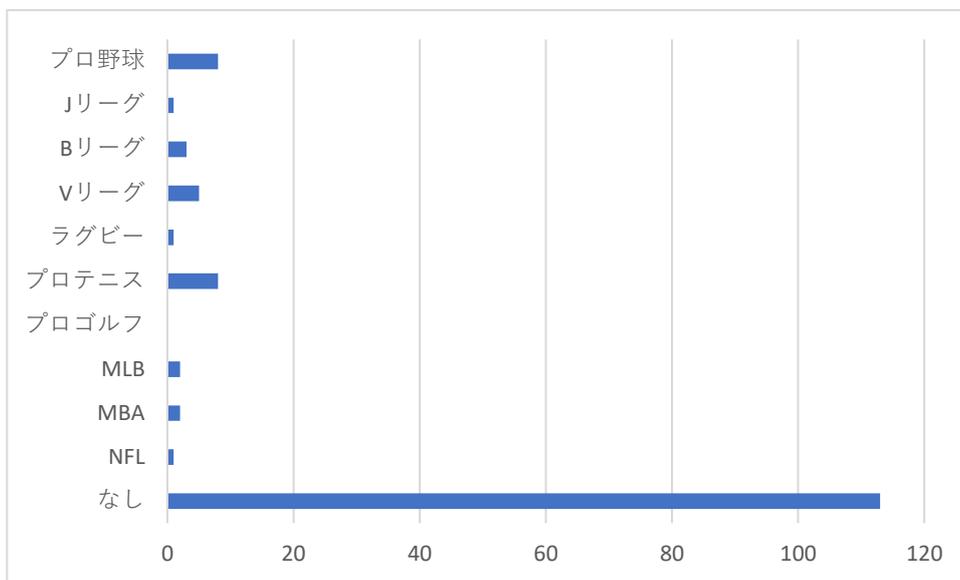


図 22 プロスポーツの TV 観戦意向

さらに B リーグの認知および観戦経験について調査した結果が表 3 である。回答者 839 名のうち、B リーグを知らないという回答は約 11%と少なく、認知率³は約 89%と多くの大学生に B リーグは認知されていることが分かる。一方で、B リーグを認知している 746 名のうち、1 回以上の観戦経験がある学生は 106 名であり、観戦経験率⁴は約 14.2%と観戦経験がある学生は少ないことが分かった。サンロッカーズ渋谷が体育館をホームアリーナとして利用している本学の学生のみ絞った結果が表 4 である。B リーグを知らないという回答は 2 名 (8%) であり、B リーグを認知している 23 名のうち、1 回以上の観戦経験がある学生は 5 名 (約 21.7%) であった。表 5 は各大学の認知率と観戦経験率を算出したものであり、観戦経験率が本学以上であったものを赤字で示している。認知率はおおむね 90%前後であり、キャンパスが郊外にある首都大学東京の認知率が低い結果となった。また、観戦経験率は青山学院大学は他大学と比較すると比較的高く、本学より高い大学は、千葉大学、立教大学、京都大学、関西学院大学、近畿大学、立命館大学の 6 校であった。立教大学を除くと大学の近隣に B リーグのチームがある大学であり、観戦しやすい環境が存在すると推察される。しかし、同志社大学や関西大学の観戦経験率は高くなく、また立教大学の観戦経験率も高いということもあり、さらなる調査が必要であると考えられる。

B リーグの認知がある回答者に「B リーグのチームが青山学院大学の青山キャンパスの体育館をホームアリーナにしていることを知っているか」を聞いた結果をまとめたものが表 6 である。全体で約 7.1%、他の関東の大学や関西の大学ではそれぞれ約 7.1%、約 5.3%がチーム名を含め認知しており、「聞いたことがある」を含めると、それぞれ 18.4%、17.4%、16.7%という認知率であった。一方で本学のみでは 26.1%の認知率、「聞いたことがある」を含めると 56.5%の認知率であり、一定の認知はなされていることが分かる。

³ 認知率 = (全回答者数 - 「B リーグを知らない」の回答者数) ÷ 全回答者数

⁴ 観戦経験率 = 1 回以上の観戦経験者数 ÷ (全回答者数 - 「B リーグを知らない」の回答者数)

表 3 Bリーグの認知・観戦経験

認知・観戦経験	回答者数
Bリーグを知らない	93
観戦したことはない	640
1回	58
2～3回	27
4～6回	14
7～9回	4
10回以上	3

表 4 Bリーグの認知・観戦経験（青山学院大学のみ）

認知・観戦経験	回答者数
Bリーグを知らない	2
観戦したことはない	18
1回	3
2～3回	0
4～6回	1
7～9回	1
10回以上	0

表 5 各大学のBリーグ認知率・観戦経験率

大学名	認知率	観戦経験率
青山学院大学	92.0%	21.7%
東京大学	88.9%	18.8%
筑波大学	91.7%	9.1%
千葉大学	85.7%	27.8%
東京学芸大学	100.0%	0.0%
首都大学東京	73.3%	0.0%
神奈川大学	93.3%	7.1%
慶應義塾大学	91.2%	16.1%
國學院大學	83.3%	20.0%
駒澤大学	93.8%	0.0%
上智大学	88.9%	12.5%
専修大学	100.0%	10.5%
中央大学	87.1%	18.5%

帝京大学	93.3%	0.0%
東海大学	84.2%	6.3%
東京理科大学	100.0%	18.2%
東洋大学	82.8%	4.2%
日本大学	75.9%	9.8%
法政大学	88.2%	13.3%
明治大学	83.3%	13.3%
明治学院大学	94.7%	5.6%
立教大学	88.5%	26.1%
早稲田大学	82.8%	17.0%
京都大学	92.9%	30.8%
大阪大学	90.9%	5.0%
神戸大学	94.7%	5.6%
大阪府立大学	88.9%	0.0%
大阪市立大学	100.0%	18.2%
関西大学	97.2%	14.3%
関西学院大学	88.5%	21.7%
近畿大学	93.3%	25.0%
神戸学院大学	91.7%	18.2%
同志社大学	87.1%	7.4%
立命館大学	87.5%	23.8%
龍谷大学	100.0%	11.8%

表 6 サンロッカーズ渋谷が本学体育館をホームアリーナにしていることの認知

	全体	本学	他大学 (関東)	他大学 (関西)
知っている (どこのチームか知っている)	7.1%	26.1%	7.1%	5.3%
聞いたことがある (どこのチームかはわからない)	11.3%	30.4%	10.3%	11.4%
知らない・わからない	81.6%	43.5%	82.6%	83.3%

最後に、大学の体育会のスポーツの観戦経験について調査した結果が図 23 及び図 24 である。野球や駅伝は 20%を超える学生が観戦したことがある一方、その他のスポーツはあまり観戦されていないことが分かる。また、図 24 を見ると、多くの学生は観戦経験がないことが分かる。

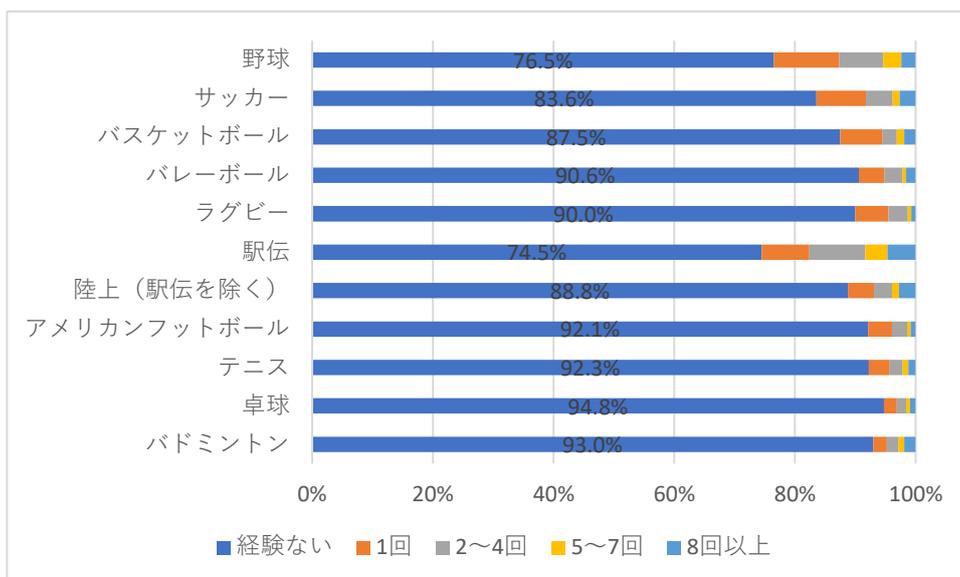


図 23 大学体育会スポーツの観戦経験

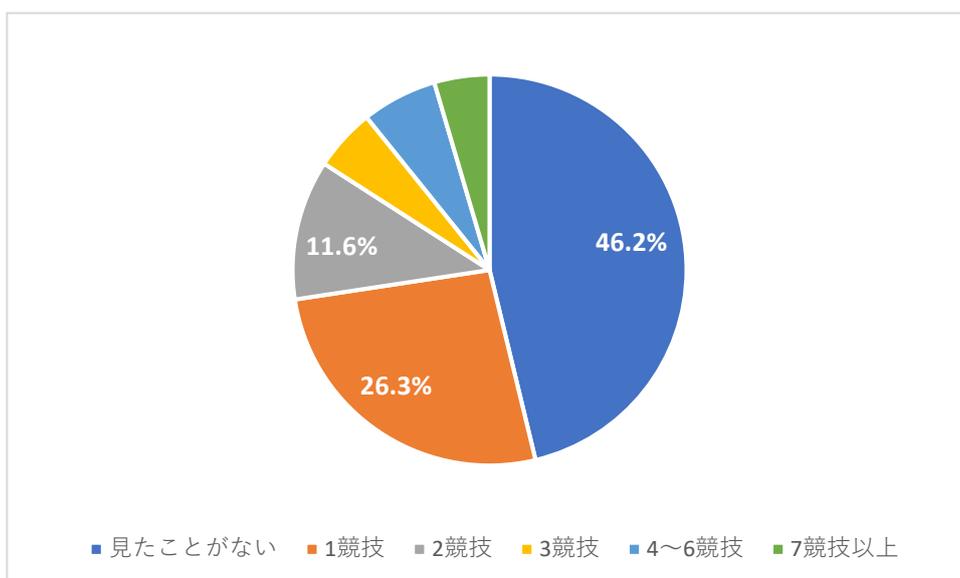


図 24 観戦競技数比率

また、東京六大学野球に所属する東京大学、早稲田大学、慶應義塾大学、明治大学、立教大学に所属する学生の大学野球の観戦経験をまとめたものが図 25、近年の箱根駅伝に出場した大学に所属する学生の駅伝の観戦経験をまとめたものが図 26 である。それぞれ 1 回以上の観戦経験は約 47.2% と約 29.8% であり、全体より高い傾向があった。

一方で、青山学院大学の学生におけるバスケットボールの観戦率は 12% と、他の大学と変わらない結果となった。

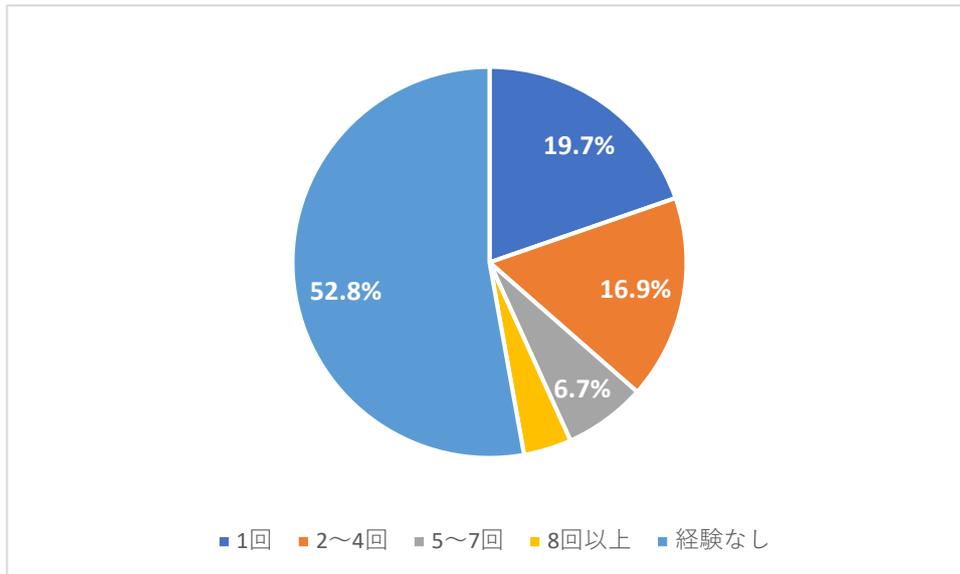


図 25 六大学野球所属大学の学生における六大学野球観戦経験

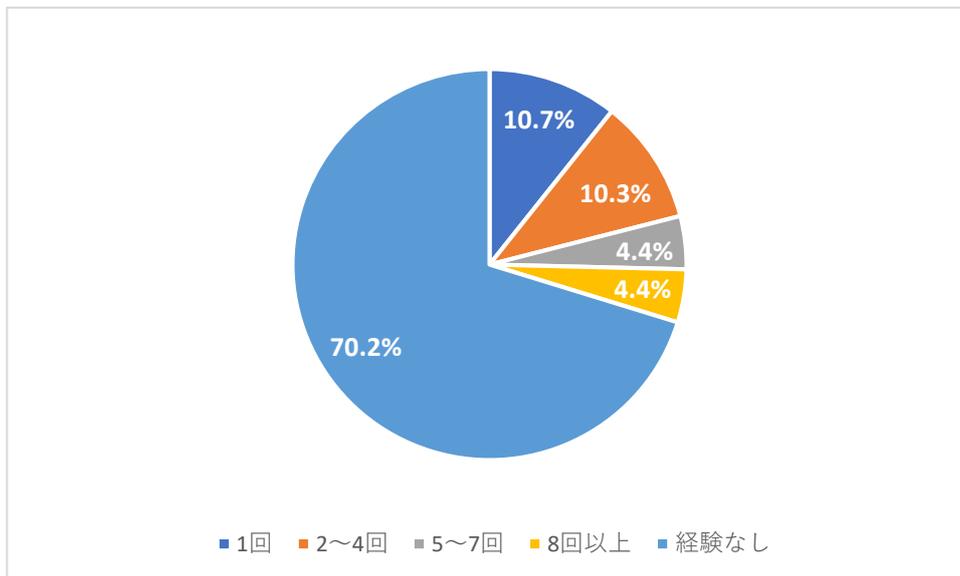


図 26 箱根駅伝出場大学の学生における駅伝観戦経験

3-3. 本節のまとめ

本節では、大学生に対し、プロスポーツやBリーグ、大学体育会のスポーツの観戦経験や観戦意向について調査を行った。プロスポーツ観戦の経験がない学生が多く、また、大学スポーツに至ってはおよそ半数の学生が観戦経験がないという結果となった。一方で六大学野球や箱根駅伝等、一般的にもメジャーで、TV中継もなされるスポーツに関して、当該大学の学生の観戦率は、全体の観戦率より高い傾向がみられた。また、Bリーグの認知率や観戦経験率は大学ごとにばらつきは見られたが、観戦経験率に関しては、Bリーグのチームが近いと考えられる大学は経験率が高い傾向がみられた。本学の学生においては、Bリーグの観戦率は21.7%であったが、大学のバスケットボールの試合観戦経験は12%と、サンロッカーズ渋谷が本学体育館を利用していることが、必ずしも大学のバスケットボールの観戦に結びついていないことを露呈する結果ともなった。なお、サンロッカーズ渋谷が本学体育館をホームアリーナとして利用していることの認知は、他の大学よりは高い結果となったが、それでも半数強であり、まだまだ広報の余地はあると考えられる。

4. Bリーグの試合観戦前後における意識調査

4-1. 調査概要

本節では、青山学院大学の学生がBリーグの試合を観戦し、満足度のみならず、大学とプロバスケットボールとの関係、その後の大学生活に与える影響などの意識調査を報告する。

対象学生は本学1年生とし、対象試合は表7の3試合とした。

表7 日時・対象試合・参加人数

日時	対象試合	参加人数（人）
2017年11月18日（土）	サンロッカーズ渋谷 vs. 島根スサノオマジック	11
2017年12月9日（土）	サンロッカーズ渋谷 vs. 千葉ジェッツ	14
2017年12月10日（日）	サンロッカーズ渋谷 vs. 千葉ジェッツ	10

3試合とも青山学院記念館（大学体育館）で行われたものである。参加人数は、試合を観戦した学生の人数である。アンケートは試合観戦前（事前アンケート）と観戦後（事後アンケート）の2回を行い、そこから青山学院大学やサンロッカーズ渋谷に対する印象の変化などを分析・考察する。

事前・事後アンケートの項目は別紙3および4である。

4-2. 調査結果

4-2.1. 事前アンケートの結果

事前アンケートの回答人数は、34人（男7人、女27人）であった。以下、回答結果である。

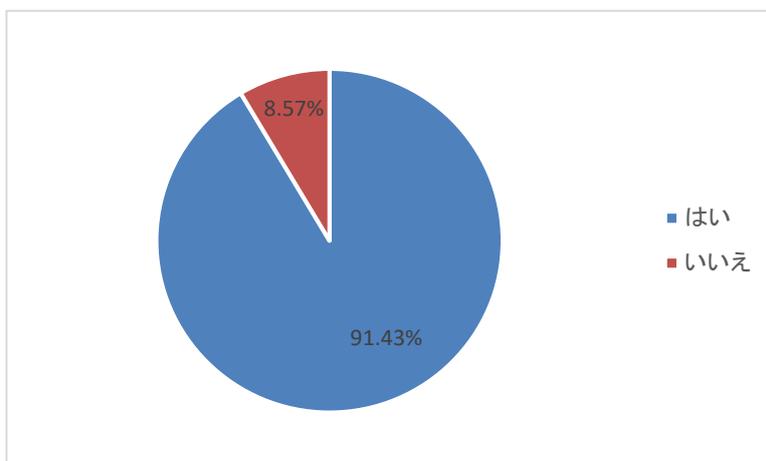


図27 現在も含め、これまでに運動部やクラブチームに所属してスポーツをしていたことがありますか

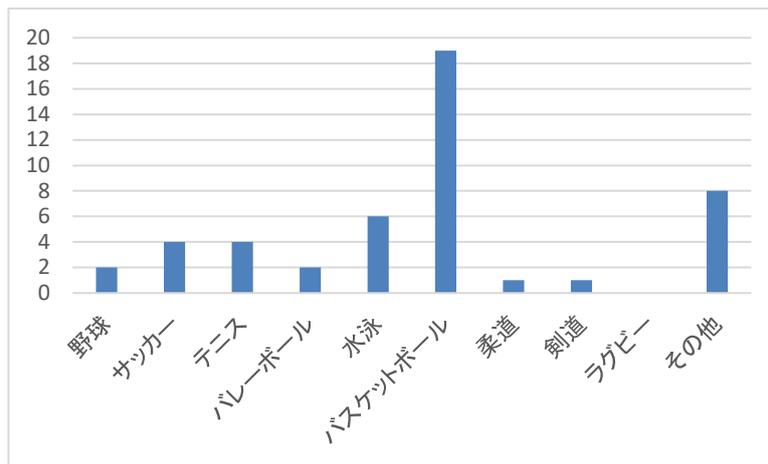


図 28 前問で「はい」と回答した方は、運動部やクラブチームに所属した経験があるのはどのスポーツですか。

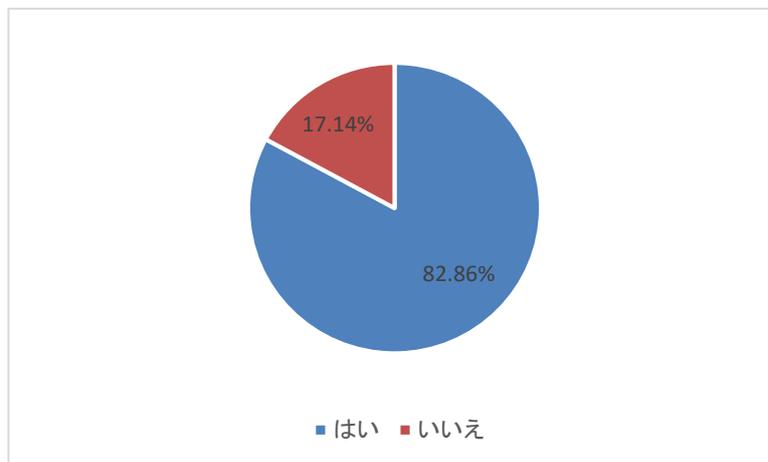


図 29 これまでにプロスポーツ観戦に行ったことがありますか？

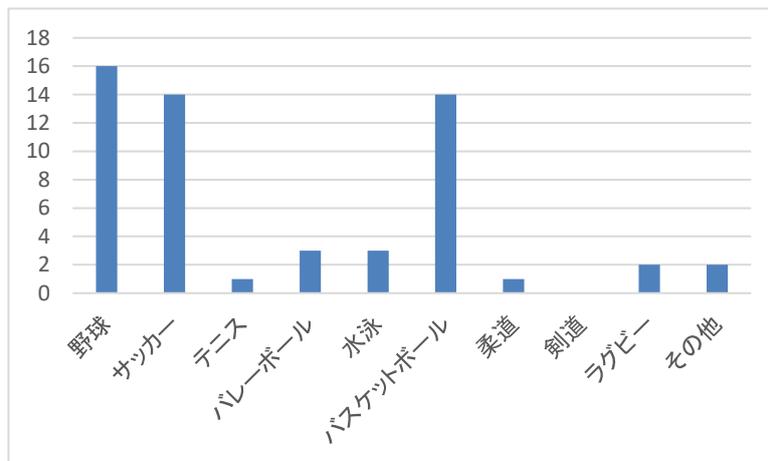


図 30 これまでに観戦したことがあるプロスポーツを次の中からすべて選んでください

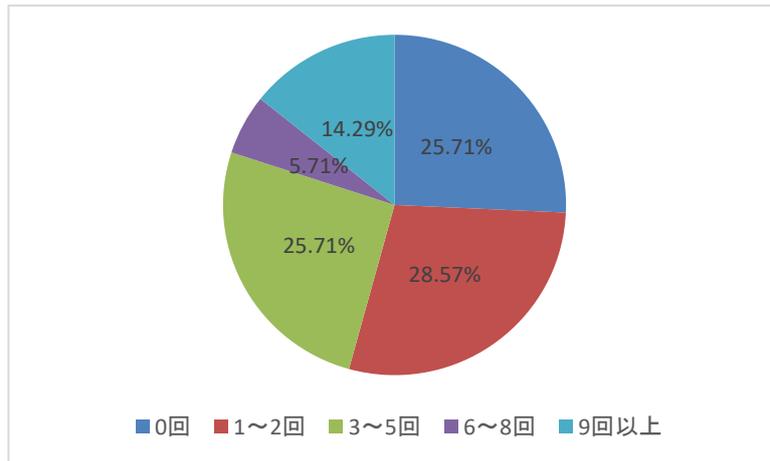


図 31 この1年間に何回スポーツ観戦（プロ、アマ問わず）に行きましたか？

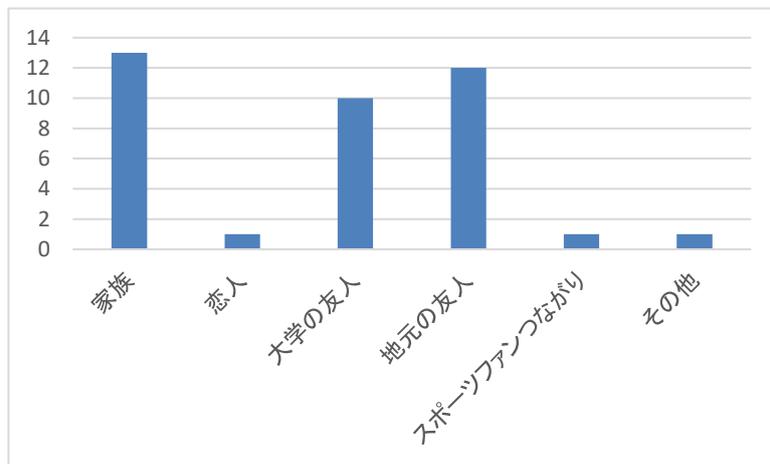


図 32 (1回以上行ったことがある人のみ) スポーツ観戦には誰と行くことが多いですか

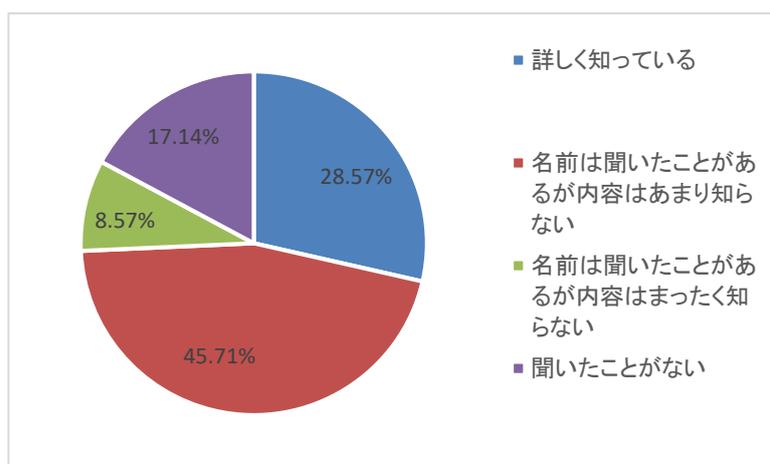


図 33 Bリーグは知っていましたか？

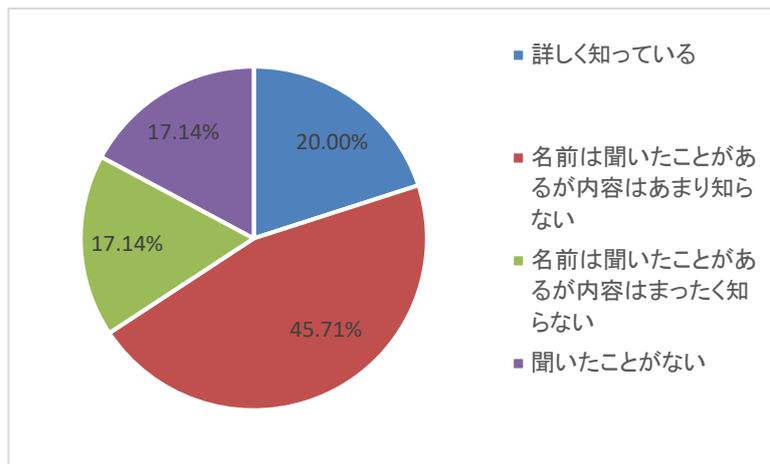


図 34 サンロッカーズ渋谷を知っていましたか？

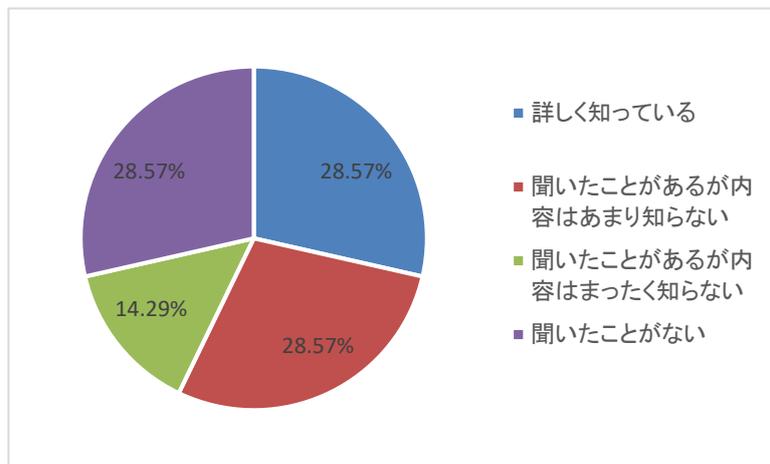


図 35 サンロッカーズ渋谷が青山学院大学体育館を「ホームアリーナ」として使用しているのかを知っていましたか？

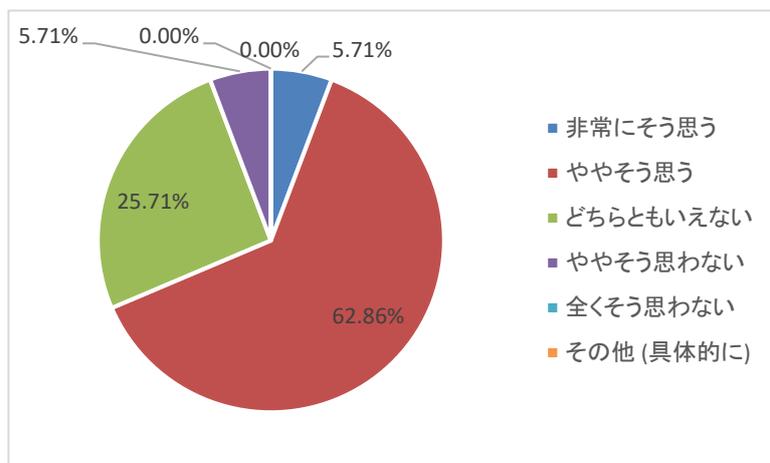


図 36 サンロッカーズ渋谷を応援したいと思いますか？

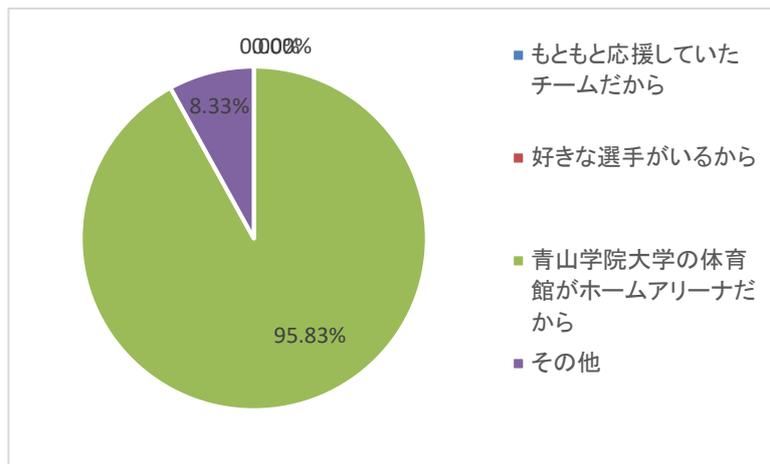


図 37 前問の「サンロッカーズ渋谷を応援しようと思いますか？」で「非常にそう思う」「ややそう思う」と答えた方は、応援しようと思う理由として該当するものを次の中からすべて選んでください

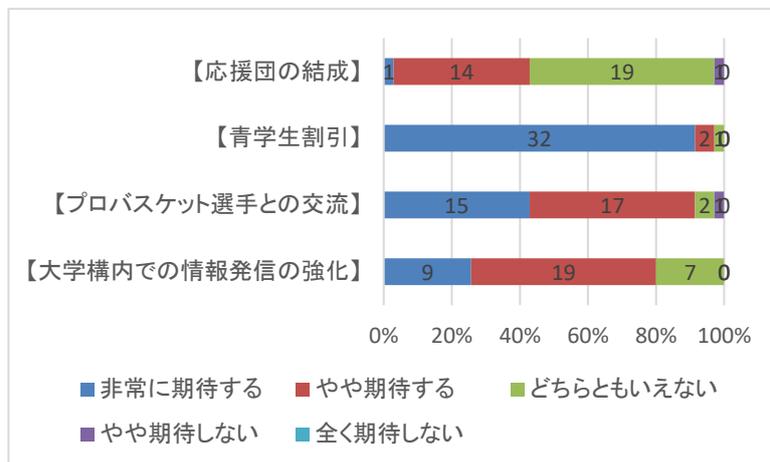


図 38 青山学院大学とサンロッカーズ渋谷の関係において、あなたは次の各項目をどの程度期待しますか

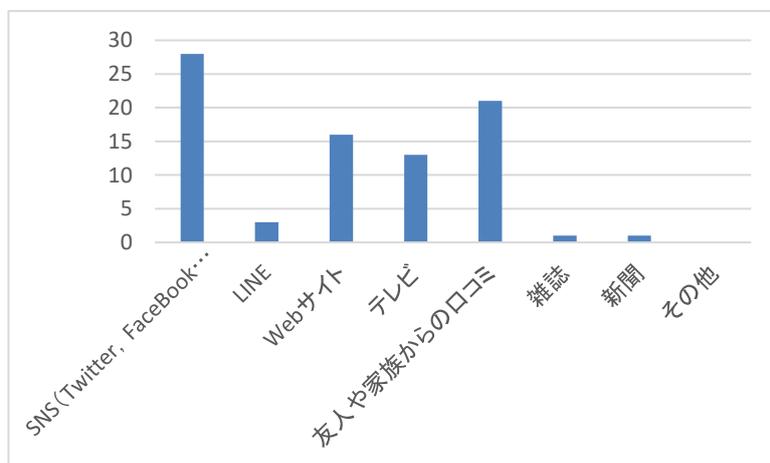


図 39 プロスポーツの情報はどこから得ますか

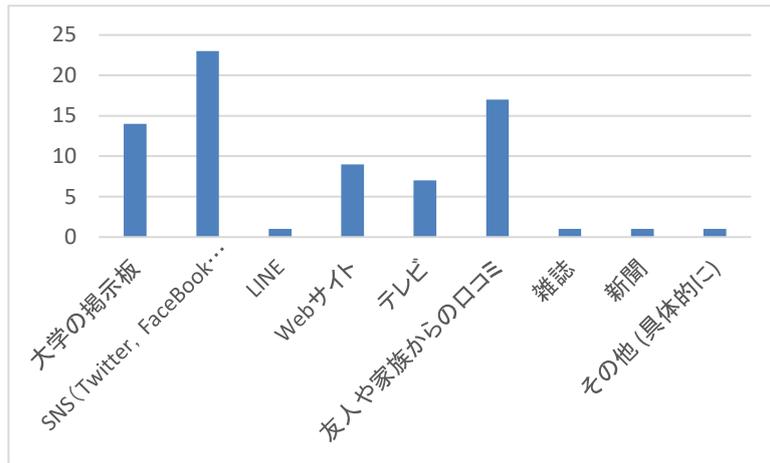


図 40 大学スポーツ（陸上部（駅伝）、野球部、ラグビー部、バレー部、バスケット部など）の情報はどこから得ますか

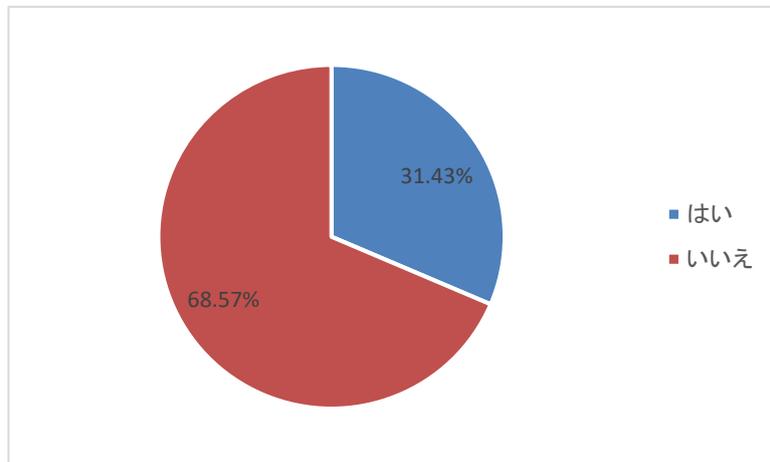


図 41 大学スポーツの観戦や応援に行ったことがありますか？

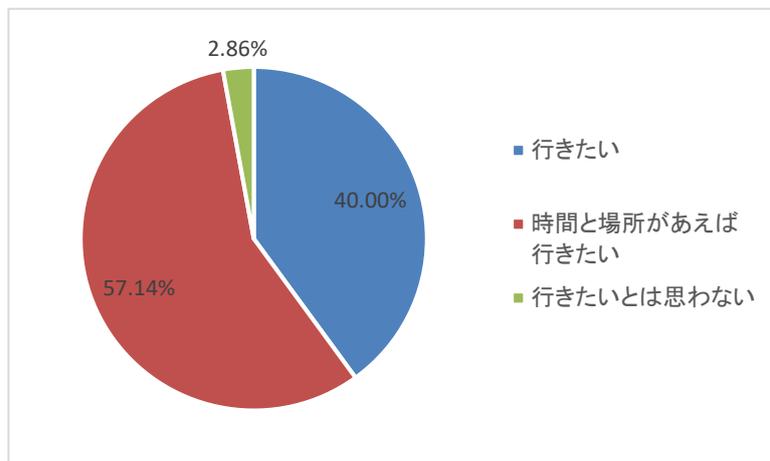


図 42 大学スポーツの観戦や応援に行きたいと思いますか？

自由記述 1：青山学院大学とサンロッカーズ渋谷の関係において、サンロッカーズ渋谷へのご意見

・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

- ・ 選手との交流
- ・ もっと青学生と交流を増やして欲しい
- ・ 選手との交流などがあつたらいいなと思います

自由記述 2：青山学院大学とサンロッカーズ渋谷の関係において、大学へのご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください

- ・ 選手との交流
- ・ ポータルなどで日程を発信してほしい
- ・ 1階のコートサイドやベンチ裏やコートエンドなどの席も青学生割引適用にして欲しいです

4-2.2. 事後アンケートの結果

事後アンケートの回答人数は31人（男7人、女24人）であった。以下、回答結果である。

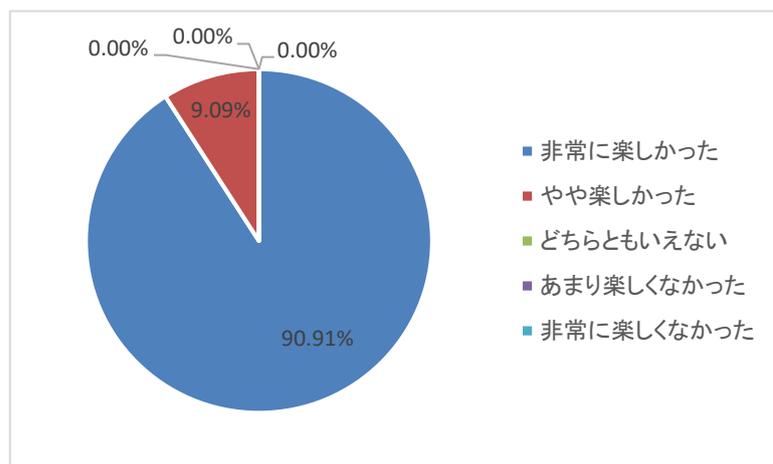


図 43 ゲーム観戦は楽しかったですか？

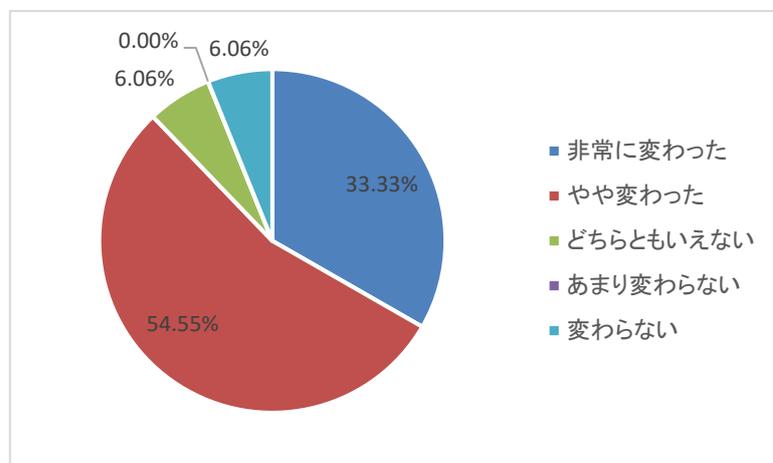


図 44 ゲームの観戦によってBリーグに対するイメージは変わりましたか？

自由記述3：前問の「Bリーグに対するイメージは変わりましたか？」で「非常に変わった」「やや変わった」と回答した方は、ゲームの観戦によってどのように変わりましたか？

- ・ Bリーグの盛り上がりが思ってたよりもすごかった
- ・ 想像以上に盛り上がっていた
- ・ 想像以上にお客さんが多く盛り上がっていた
- ・ また観戦したいと思った
- ・ もっと上手いと思っていた、思っていたよりも迫力があつた
- ・ 思ったより人気だった
- ・ Bリーグの試合にこんなにも熱気があるとは正直想像していなかった
- ・ また観たくなった
- ・ 興味を示すようになった
- ・ 思った以上に観客を巻き込む応援や演出がされていて、親しみが持てた
- ・ 想像以上に盛り上がっていてとても楽しかったです
- ・ また観戦しに行きたい気持ちになった
- ・ 男子のバスケットはパワープレー、パフォーマンスメインのイメージが強かったが、普通のバスケットの面白さだった
- ・ 盛り上がりがすごかった
- ・ ファンの皆さんの応援が本格的でビックリしました
- ・ ショーのような楽しさがあった
- ・ 楽しかった
- ・ もっと観戦したくなった
- ・ 緊迫する試合、そして何よりもファンの応援の迫力があり、音楽や盛り上がりによって、応援の楽しさを実感した
- ・ 全くなにも知らなかったが、カッコよくて白熱できるものなのだと感じるようになった
- ・ 意外とプロでもミスをしたりシュートを外したりするんだな、という感じ。
プロ野球は良く見に行くが、やはり盛り上がりや規模はまだまだ差があるなと思ったが、盛り上げようとしているんだなと関心した
- ・ よりBリーグに興味を持った
- ・ 思っていた以上に盛り上がりがあってBリーグに対するイメージが良くなりました

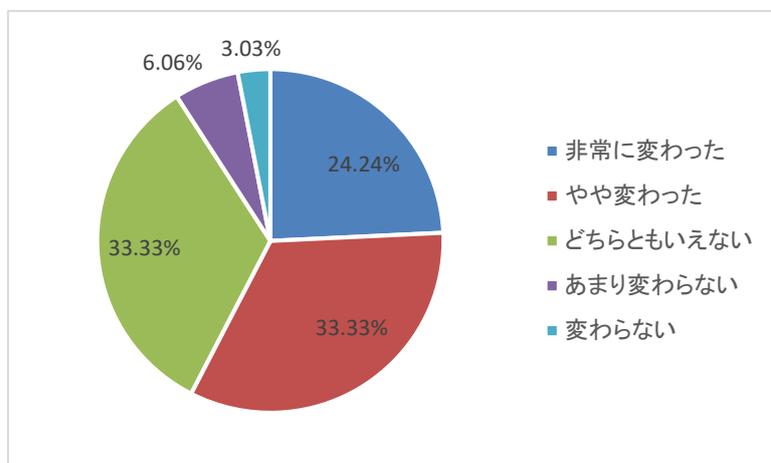


図 45 ゲームの観戦によってサンロッカーズ渋谷に対するイメージは変わりましたか？

自由記述 4：前問の「サンロッカーズ渋谷に対するイメージは変わりましたか？」で「非常に変わった」「やや変わった」と回答した方はどのように変わりましたか？

- ・ 少しサンロッカーズのことを知れた
- ・ ファンの熱さが予想以上だった
- ・ 応援したいと思った
- ・ 思ったよりレベルが高く外人選手も多かった
- ・ ここまで盛り上がっているとは思っていなかったので、応援したいと思った
- ・ 9 連勝中とあってチームの雰囲気もよく、怪我人を出しながらもチームが一丸となっていてまた応援しようと思った
- ・ 親近感がわいた
- ・ 応援があつい
- ・ あまり有名選手がいなかったと思っていたが、チームとして強く、良いチームだと思った
- ・ 思っていたよりも強かった
- ・ 明るいチームだった
- ・ 名前も知らなかったけど、とても人気で強いチームなのだと認識しました
- ・ ホームのチームだとわかった
- ・ 応援したくなった
- ・ 応援の楽しさを知ったことにより、サンロッカーズ渋谷が点を入れたときには気付いたら拍手をし、自分自身がファンのようにになっていた
- ・ 外国人選手もたくさんいた、大きかった
- ・ もっと応援したいと思うようになりました

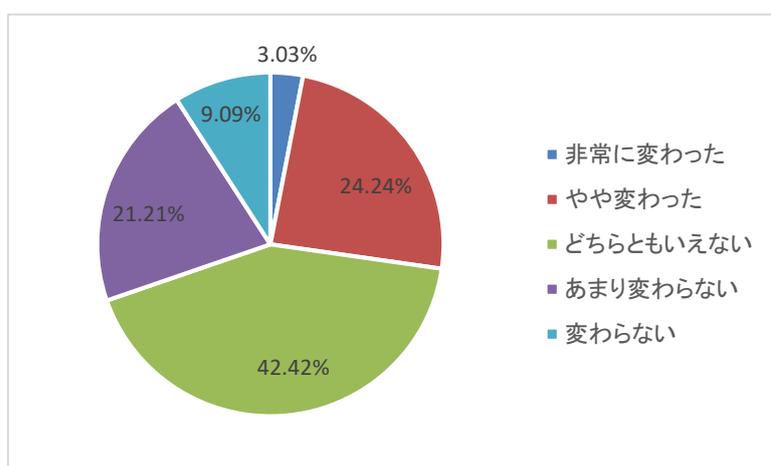


図 46 青山学院大学に対するイメージは変わりましたか？

自由記述 5：前問の「青山学院大学に対するイメージは変わりましたか？」で「非常に変わった」「やや変わった」と回答した方はどのように変わりましたか？

いい印象になった

- ・ プロのバスケが観戦できるなんてすごい
- ・ 学内の体育館がこんなに熱気があるとは思わなかった
- ・ スポーツの誘致に力を入れている

- ・ 体育館を貸してるのを初めて知りました
- ・ 企業チームに対していい働きをしてるなと思いました
- ・ 記念館がこんなにも盛り上がる場所になるとは思っていなかった
また普段の大学生活では見ない年齢層の方もいらっしゃり、こんな使い方もあるんだと思った
- ・ プロのバスケのホームが、自分の体育をしている体育館というのはとても嬉しい

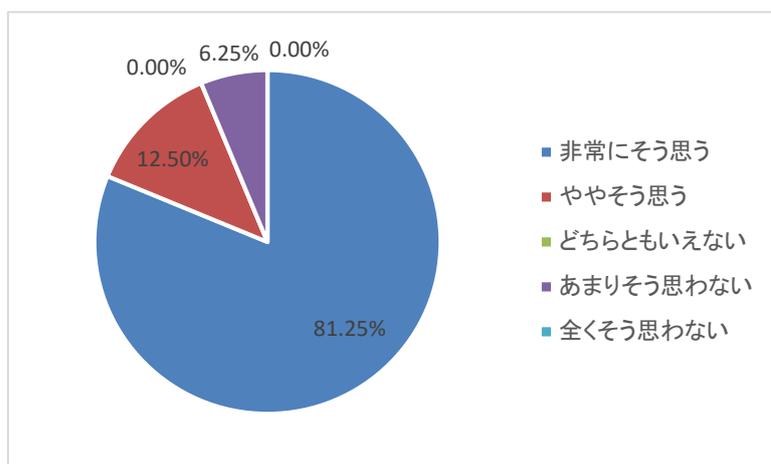


図 47 また観戦に行きたいですか？

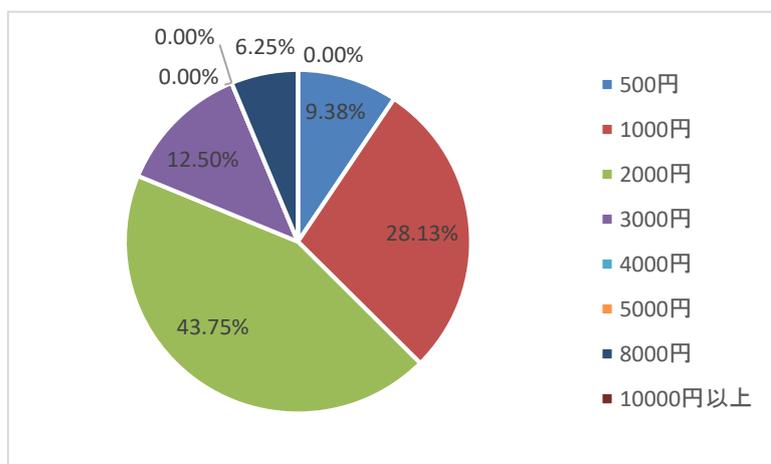


図 48 学生一般が購入できるチケット価格の最大値はいくらくらいですか？

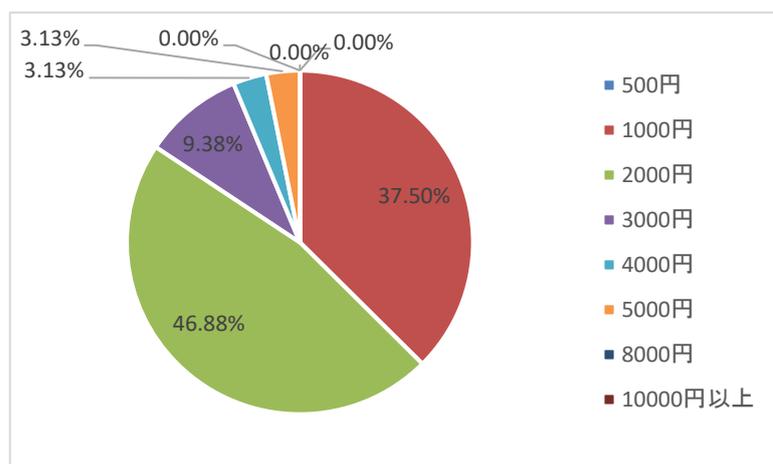


図 49 今回の満足度をチケット値段で置き換えると一番近いのはいくらですか？

自由記述 6：観戦を通じてご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

- ・ 楽しかった
- ・ 青学生にとって素晴らしい機会だと思った
- ・ 青学生はホームゲームの時無料にしてほしい
- ・ もっと試合を観れる機会が多い方がいいと思うし、また、試合の存在をもっと広告するべき
- ・ もっと青学生に対して広告したり、割引率をあげて欲しいです
- ・ 席が微妙だった
- ・ 冬だったけれどとにかく暑かった 流石に暖房が効きすぎだと思いました
- ・ Bリーグやサンロッカーズがより多くの青学生に知られるようになればいいなと思います
- ・ 初めてBリーグの試合を生で観戦して、すごく楽しかったです
- ・ 学生優待の買い方がわからない
- ・ 客席を増やして欲しいです
- ・ 非常に盛り上がりました
- ・ とても楽しかったです
- ・ 楽しかった
- ・ 本当に楽しかったのでまたこのような機会を作ってくれと嬉しいです ありがとうございます
- ・ また青山キャンパスで試合をして欲しい
- ・ 青学の記念館を貸しているの、青学生割引があったらもっと応援に行きたくなる
- ・ 会場の温度が暑すぎる
- ・ このような企画がもっとあればいいです
- ・ また観たいです
- ・ 公式の試合を無料で観れて貴重な体験ができてよかったです
- ・ また機会があればお願いします
- ・ また次回、機会があればぜひ行きたいです
- ・ バスケットに全く興味がなかったが楽しめたので、バスケットをもっとよく知る人ならさらに楽しめると思う

青学としてももっと積極的に宣伝していった方がいいと思います

- ・ スクリーンが小さくて見えにくかった
- ・ Bリーグが大好きでいつも会場まで観に行っています サンロッカーズ渋谷の試合は数回しか行ったことがなかったので、演出や音楽など新鮮で楽しかったです
サンディーくんは相変わらずとっても可愛かったです またサンロッカーズ渋谷の試合も行きたいと思いました
- ・ 今回の観戦を機に、他のチームとの試合も見てみたいと思うようになりました
すごい楽しかったです

自由記述 7：青山学院大学とサンロッカーズ渋谷がお互い発展するためには、青山学院大学には何を求めますか？

- ・ 機会
- ・ より学生への試合観戦の提供
- ・ 青学生の入場無料
- ・ 試合の大々的な広告、チケット割引
- ・ チケットの割引
- ・ 試合の見やすさ
- ・ 選手との交流
- ・ サンロッカーズを応援していることを SNS や、学食のメニューや、公式グッズのコラボなどをしていくべき
- ・ 学内で選手について知れるようなイベントがあればいいと思います
- ・ サンロッカーズをもっと青学生に知ってもらうこと
- ・ 学生がチケットを求めやすくする
買い方のガイドのようなものがあると良い
- ・ 交流をもっと深める
- ・ 宣伝を積極的にする
- ・ 学生と選手との交流の機会を設けること
- ・ 観戦の機会を増やす
- ・ 宣伝拡大
- ・ 学内でもっと告知をした方がいいと思います
- ・ 青山キャンパスでの試合
- ・ サンロッカーズ渋谷のホームが自分の学校って知らない青学生が多いから宣伝を増やしてもいいんじゃないか
- ・ 広告
- ・ 今回みたいにまたチケットを配る
- ・ 青山学院の生徒にサンロッカーズを知ってもらう機会を増やすこと
- ・ もっと青学体育館で試合する、メディアで広める
- ・ 学生へのチケット配布を勧める
- ・ 学内のポスターだけではサンロッカーズ渋谷の良さ、強さ、勢い、また盛り上がりのある会場の雰囲気は伝わらない
あの熱い試合が青学で行われていることを、青学生に周知させるべきである

- ・ 青学にバスケのイメージがないので、まずは青学生に周知して貰えるような仕組みを作る
- ・ 自覚と自信、誇り
- ・ 試合の宣伝をもっとする
- ・ もっとBリーグのイベントに関わったらいいと思います
- ・ もっとサンロッカーズ渋谷を宣伝してほしいです

自由記述 8：青山学院大学とサンロッカーズ渋谷がお互い発展するためには、サンロッカーズ渋谷には何を求めますか？

- ・ 宣伝
- ・ より試合の情報を流して欲しい
- ・ 青学生を対象としたイベント
- ・ イベント開催
- ・ 青学に対しての広告
- ・ 学生との交流
- ・ 学生と選手とが触れ合える機会を作る
- ・ 青学でたくさん試合をすること
- ・ 学内でのPR活動
- ・ 交流をもっと深める
- ・ 技術向上
- ・ 宣伝活動を盛んに行うこと
- ・ 学生料金を設定する
- ・ 学生と交流
- ・ 選手との交流イベントみたいなものを作って欲しいです
- ・ これ以上求めるものはない
- ・ サンロッカーズ渋谷のホームが自分の学校って知らない青学生が多いから宣伝を増やしてもいいんじゃないか
- ・ ふれあい
- ・ 強くなる
- ・ 広告を増やすこと
- ・ 学生へのアピール
- ・ 学生がチームの練習に参加するなどの機会をつくる
- ・ ポスターだけではない宣伝の仕方を考えること
- ・ もっと青学がホームだと主に青学生にアピールする
- ・ 優勝
- ・ 試合の宣伝をする
- ・ 交流の場を作って欲しいです
- ・ 青学との交流イベントなどをしていただきたいです

自由記述 9：青山学院大学の学生らに観戦してもらうためには何が必要だと思いますか？

- ・ 機会

- ・ 情報の提供を増やす
- ・ 入場料無料
- ・ チケットの割引
- ・ チケットの値段を安くする
- ・ まず、サンロッカーズのチーム自体を知ってもらい、カッコいい選手や、カッコいいプレーをする動画などをもっと学内でもアピールしていくべき
- ・ 学生がサンロッカーズの試合を見に来るきっかけのようなもの
- ・ 今回のように青学生は入場を無料にする
- ・ サンロッカーズ側の本学に対する宣伝
- ・ マナー向上
- ・ 広く認知させることと、学生割引
- ・ バスケットに興味を持ってもらう
- ・ ポスターやポータルをもっと目立たせる
- ・ もっと手軽に観戦できるようなチケットの料金設定が必要だと思います
- ・ 今回のような学生を無料にする待遇
- ・ チケットの割引
- ・ 宣伝などをもっと大規模で行う
- ・ 広告
- ・ 宣伝など
- ・ 大人数できたら安くなるなどの制度を作る
- ・ もっと大学で情報共有する
- ・ チケットの値段の引き下げ
- ・ 2000円だと、観るか迷ったところがある
もう少し安くないか
- ・ 安めのチケット販売
- ・ このような機会をもっと増やす、宣伝する、選手に青学でバスケットを教えてもらえる時間を作る
- ・ チケットのサービスなどをしてまず1回は観てもらおうこと
- ・ プロバスケットボール選手のホームに青学を使っているということを学生に知ってもらう必要があると思います

自由記述 10：青山学院大学とサンロッカーズ渋谷がお互い発展するためには、ご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。

- ・ お互いが繋がっているとメディアを通して発信すること
- ・ サンロッカーズを応援しているし、青学の体育館が使われているということもあるので、もっと双方の結びつきを強めて欲しいと願っています
- ・ 今のままでは、大学が場所を貸しているだけのイメージがある
もっとコラボしてほしい
- ・ 試合以外の交流の場を深める
- ・ 宣伝をもっとして興味を持ってもらう

- ・ もっと青学とサンロッカーズ渋谷のつながりを外部にもアピールしてもっとバスケット観戦の楽しさを伝えてほしいです

4-3. アンケート結果と考察

はじめに、事前アンケートを分析する。今回、観戦した学生の8割以上がスポーツ経験者、スポーツ観戦経験ありというものであった。しかしながら、Bリーグを“詳しく”知っている学生は28%で、サンロッカーズ渋谷を“詳しく”知っている学生は20%と低くなる。ただし、「名前は聞いたことがあるが内容はあまり知らない」まで広げると、両質問とも65%以上となる。

「サンロッカーズ渋谷が青山学院大学体育館を「ホームアリーナ」として使用しているのかわかっていましたか？」は「詳しく知っている」、「聞いたことがあるが内容はあまり知らない」で58%だが、それを知って応援しようと思う学生は68%まで上昇する。その理由は、「青山学院大学の体育館がホームアリーナだから」が95%となる。したがって、プロバスケットチームに大学が体育館や場所を提供することは、ファン獲得の大きな要因になると思われる。

学生のスポーツ情報の取得手段をみると、ロコミ、SNSが多いが、自由記述には「学生ポータル」や「大学の掲示板」という学生生活に身近なものもあった。

学生の青山学院大学とサンロッカーズ渋谷への要望で「学生割引」や「選手との交流」というものが多かった。

ここまでの考察として、学生はサンロッカーズ渋谷が青山学院大学体育館をホームアリーナとしていることを知っている割合はまだ低い。また、学生の情報収集手段として、未だに掲示板がある。つまり、ポスター等での発信手段は、効果的と思われる。学生の要望からは、バスケットボールの観戦環境の充実が求められる。

次に、事後アンケートを分析する。「ゲーム観戦は楽しかったですか？」という質問で「非常にそう思う」は90%、「また観戦に行きたいですか？」も同様に81%であった。したがって、バスケット観戦の満足度の高さがうかがえる。「ゲームの観戦によって、Bリーグに対するイメージは変わりましたか」は「非常に変わった、やや変わった」を合わせて87%、「ゲームの観戦によって、サンロッカーズ渋谷に対するイメージは変わりましたか？」は「非常に変わった、やや変わった」を合わせて57.7%とやはり試合観戦後の満足度は高い。自由記述から理由をみると「想像以上に盛り上がっていた」、「Bリーグの試合にこんなにも熱気があるとは正直想像していなかった」、「ファンの皆さんの応援が本格的でビックリしました!」、「ショーのような楽しさがあった」と、試合のみならずその他のイベントやマスコットなどの貢献度がわかる。これも満足度を高める要因と思われる。ただし、「青山学院大学に対するイメージは変わりましたか？」は「非常に変わった、やや変わった」を合わせて27%と、必ずしも大学のイメージ向上にはつながっていないことがわかる。

青山学院大学の学生にバスケット観戦してもらうための方針を、価格と意見・要望からみていく。チケットに関して「学生一般が購入できるチケット価格の最大値はいくらくらいですか？」という問いに対して、2,000円が多かった。「今回の満足度をチケット値段で置き換えると一番近いのはいくらですか？」も1,000円と2,000円で84%を占めた。

「観戦を通じてご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください」という自由記述に対して、「青学生はホームゲームの時無料にしてほしい」、「もっと青学生に対して広告したり、割引率をあげて欲しいです」、「青学の記念館を貸しているので、青学生割引があったらもっと応援に行きたくなる」というように青学生割引などの提案に対する記述が多かった。

「青山学院大学とサンロッカーズ渋谷がお互い発展するためには、青山学院大学には何を求めますか？」という自由記述に対して、「より学生への試合観戦の提供」、「チケットの割引」、「サンロッカーズを応援していることを SNS や、学食のメニューや、公式グッズのコラボなどをしていくべき」、「学生と選手との交流の機会を設けること」というようにホームアリーナならではの要望が多かった。

「青山学院大学とサンロッカーズ渋谷がお互い発展するためには、サンロッカーズ渋谷には何を求めますか？」に関しては、「青学生を対象としたイベント」、「学生と選手とが触れ合える機会を作る」、「広告を増やすこと」などの大学への働きかけが多かった。

「青山学院大学の学生らに観戦してもらうためには何が重要だと思いますか？」は「チケットの割引」、「広告、宣伝」、「チケットのサービスなどをしてまず1回は観てもらおうこと」などであった。

以上の結果から考察すると、バスケットの観戦に対する満足度は非常に高い。したがって、「バスケットボールの試合を一度見に行く」ことが重要になる。そのために、学生が自ら購入できるチケット価格は、学生の満足度ということも加味して2,000円前後とわかる。また、青山学院大学体育館がホームアリーナであるため、双方の結びつきや学生価格の提供、選手との交流、大学掲示板の広告・宣伝などの要望を満たす必要がある。

5. 総括

本節では、「大学スポーツ施設を拠点とするプロバスケットチームのホームアリーナ化への更なる取り組み」の取り組みに関して総合的な考察を行うとともに、今後の課題について述べる。

まず、(1) 観戦者へのアンケート調査 では本学体育館、北海きたえーる、府民共済 SUPER アリーナの3会場における調査を実施し、のべ3,000件を超える回答を集めることができた。3会場はそれぞれ、大学体育館、公共の体育館、チーム運営主体が管理する体育館であり、それぞれ試合運営形態の異なる施設である。調査の結果、会場ごとに特色のある結果が得られたと考えているが、ホームチームファンに限定した集計や、他会場での観戦経験のあるファンに限定した集計等、今回行わなかった・紹介しなかった分析も多数あり、さらに運営形態や立地条件の異なる別の会場における調査をすることも検討する必要がある。

次に、(2) 大学生のスポーツ観戦調査 に関しては、800名を超える大学生に調査を行うことができ、大学生にスポーツ観戦の実態について調べることができた点では価値がある調査であったと考えられる。しかしながら、大学ごとの学生の違いについて分析を行う上で、特に本学学生の傾向を探る上では回答者数が十分とは言えず、他大学の協力も仰ぎながら直接調査を実施する等の工夫は必要であると考えられる。

最後に(3) 本学学生を対象としたBリーグの試合観戦前後における意識調査 に関しては、本学学生のサンロッカーズ渋谷の試合観戦前後における意識の変化の一端を探ることはできたと考えられる。しかし、試合観戦を申し出た学生はバスケットボール経験者が多く、観戦意向・意識の面で、一般学生からの乖離が見られた可能性は否定できない。また、1回の観戦だけで意識の変化だけではなく、継続的な観戦による調査を行うことで、プロスポーツや大学スポーツへの意識の変化をとらえることができる可能性があると考えている。この点については、今後も規模を拡大して継続的に調査・研究を行っていくことを考えていくべきであると考えられる。

本取り組み全体を通して、大学体育館をBリーグをはじめとするプロスポーツの試合会場として

貸し出すことのメリット・デメリットや、学生の認識・意識の違いについて把握することができたという面では一定の成果を上げることができたと考えている。産学連携という面では、双方に様々なメリットがあることは確かなものであると考えられる。しかしながら調査を進め、関係者にヒアリングを行っていく中で、設備面・制度面での障壁があるということが分かってきた。特に、設備面では、Bリーグのホームアリーナの設置基準という面、飲食物を販売する際の保健所や消防法との兼ね合いという点、制度面では大学の施設を有料で貸し出す際の税制面の問題である。大学でプロスポーツの試合が行われることでスポーツ振興が計られていくのであれば、これらの問題点については、大学、チーム、関係機関が連携をして解決をしていくべき問題であると考えられる。本取り組みの成果が日本版NCAAの発展、また大学、チームそれぞれの更なる発展の一助となることを願って、本取り組みの結びとしたい。

【別紙1（第四章）】観戦者へのアンケート調査における質問項目

- Q1. 本日の試合チケットはどうやって入手されましたか？（ラジオボタン）
Web サイトで購入／コンビニで購入／試合会場で購入／友人知人からもらった／その他（チーム・選手関係者を含む）
- Q2. 本日も観戦されている座席の種類を教えてください。（ラジオボタン）
※ 試合会場によって選択肢を変更
- Q3. 誰と観戦に来ましたか？（ラジオボタン）
ひとり／友人／家族（大人のみ）／家族（子供を含む）／職場の同僚／その他（チーム・選手関係者を含む）
- Q4. 今日の試合を観戦に来た理由を教えてください。
（チェックボックス（複数可）＋その他の場合は記述）
ホームチームのファンだから／アウェイチームのファンだから／ホームチームのファンの友人・同僚に誘われたから／アウェイチームのファンの友人・同僚に誘われたから／ホームチームの特定の選手を応援したいから／アウェイチームの特定の選手を応援したいから／バスケ観戦が好きだから／地元のチームだから／その他
※「ホームチーム」「アウェイチーム」は実際のチーム名を記載
- Q5. あなたが応援しているチームを教えてください。（ラジオボタン）
ホームチーム／アウェイチーム／その他のチーム／特に応援しているチームはない
※「ホームチーム」「アウェイチーム」は実際のチーム名を記載
- Q6. これまでBリーグの試合を何回観戦したことがありますか？（ラジオボタン）
今日が初めて／1～2回／3回～5回／6回～10回／10回以上
- Q7. これまでこの会場でBリーグの試合を観戦したことがありますか？（今日の試合を除く）
（ラジオボタン）【Q5で「今日が初めて」以外が回答対象】
はい／いいえ
- Q8. これまでこの会場で何回観戦したことがありますか？（ラジオボタン）
【Q7で「はい」が回答対象】
1～2回／3～5回／6回以上
- Q9. これまで他の会場でBリーグの試合を観戦したことがありますか？（ラジオボタン）
【Q6で「今日が初めて」以外が回答対象】
はい／いいえ

Q10. 試合会場の施設やサービスに関して、どの程度あてはまるかお答えください。（ラジオボタン）

【試合会場の立地場所の雰囲気】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

【試合会場へのアクセス】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

【試合会場の設備（通路、トイレなど）】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

【試合会場の座席】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

【コートの見やすさ】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

【飲食販売（品揃え）】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満／購入していない・見ていない

【飲食販売（味）】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満／購入していない・見ていない

【飲食販売（価格）】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満／購入していない・見ていない

【グッズ販売（品揃え）】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満／購入していない・見ていない

【グッズ販売（価格）】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満／購入していない・見ていない

【マスコットのパフォーマンス】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

【チアリーダーのパフォーマンス】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

【音響・照明】

非常に満足／やや満足／どちらともいえない／やや不満／非常に不満

Q11. 日頃Bリーグの情報をどこで得ていますか。（チェックボックス（複数可））

Bリーグの公式サイト／Facebook／Twitter／メールマガジン／その他 Web サイト／情報収集していない

Q12. 以下の各項目についてあてはまるものをお選びください。（ラジオボタン）

【今日の観戦において会場で飲食物やグッズの購入でいくら使いましたか？（チケット代は除く）】

2000 円未満／2000 円以上 5000 円未満／5000 円以上 10000 円未満／10000 円以上 20000 円未満
／20000 円以上 50000 円未満／50000 円以上

【今日 1 日の予算（会場内での飲食物やグッズ購入、会場外での買い物・飲食等、ただしチケット代、交通費、宿泊費は除く）】

2000 円未満／2000 円以上 5000 円未満／5000 円以上 10000 円未満／10000 円以上 20000 円未満
／ 20000 円以上 50000 円未満／50000 円以上

【今日の観戦においてかかった交通費・宿泊費】

2000 円未満／2000 円以上 5000 円未満／5000 円以上 10000 円未満／10000 円以上 20000 円未満
／20000 円以上 50000 円未満／50000 円以上

Q13. 自宅・宿泊先からこの試合会場までの所要時間を教えてください。（ラジオボタン）

30 分以内／30 分から 1 時間／1 時間から 2 時間／2 時間以上

Q14. この会場についてご意見がありましたらご自由にお書きください。（自由記述）

Q15. 性別（ラジオボタン）

男性／女性

Q16. 年代（ラジオボタン）

10 代未満／10 代／20 代／30 代／40 代／50 代／60 代／70 代以上

Q17. 職業（プルダウン）

会社員・公務員／自営業／大学生・専門学校生／中学生・高校生／小学生以下／その他

Q18. 居住地（プルダウン）

（47 都道府県プルダウン）

また、連戦の 2 日目は Q6 の次に以下の 2 問を追加

Q. 昨日も観戦されましたか？（ラジオボタン）

はい／いいえ

Q. 昨日もこのアンケートに回答されましたか？（ラジオボタン）

はい／いいえ

青山学院記念館での調査では Q13 の次に以下の 1 問を追加

Q. サンロッカーズは青山学院大学の体育館をホームコートとして利用していますが、プロスポーツチームが大学の施設をホームコート（ホームグラウンド）とすることをどう思いますか？（自由記述）

【別紙2（第四章）】大学生のスポーツ観戦調査における質問項目

○ プロスポーツの観戦経験についてお伺いします。

Q1. 過去3年間における以下のプロスポーツの試合会場での観戦経験・頻度をお答えください
<グリッド>

プロ野球

Jリーグ

Bリーグ（バスケットボール、JBL、bjリーグを含む）

Vリーグ（バレーボール）

ラグビートップリーグ

プロテニス

プロゴルフ

MLB（メジャーリーグベースボール）

MBA（アメリカプロバスケットボール）

NFL（アメリカンフットボール）

頻繁に観戦する

たまに観戦する

めったに観戦しない

観戦したことがない

Q2. 【Q1で1つ以上観戦経験がある人】誰と観戦したかを教えてください

<チェックボックス・複数回答可>

ひとり

友人

家族

その他（具体的に）

Q3. 【Q1で1つ以上観戦経験がある人】観戦理由を教えてください

<チェックボックス・複数回答可>

そのスポーツのチーム・選手が好きだから

そのスポーツ自体が好きだから

そのスポーツのチーム・選手が好きな家族・友人等に誘われたから

そのスポーツ自体が好きな家族・友人等に誘われたから

地元のチーム・選手だから

その他（具体的に）

Q4. 【Q1で観戦経験がない人】観戦したいスポーツがあれば教えてください

<チェックボックス・複数回答可>

プロ野球

Jリーグ

Bリーグ（バスケットボール、JBL、bjリーグを含む）

Vリーグ（バレーボール）

ラグビートップリーグ

プロテニス

プロゴルフ

MLB（メジャーリーグベースボール）

MBA（アメリカプロバスケットボール）

NFL（アメリカンフットボール）

Q5. 過去3年間における以下のプロスポーツのTVでの観戦経験・頻度をお答えください

<グリッド>

プロ野球

Jリーグ

Bリーグ（バスケットボール、JBL、bjリーグを含む）

Vリーグ（バレーボール）

ラグビートップリーグ

プロテニス

プロゴルフ

MLB（メジャーリーグベースボール）

MBA（アメリカプロバスケットボール）

NFL（アメリカンフットボール）

頻繁に観戦する

たまに観戦する

めったに観戦しない

観戦したことがない

Q6. 【Q5で1つ以上観戦経験がある人】観戦理由を教えてください

<チェックボックス・複数回答可>

そのスポーツのチーム・選手が好きだから

そのスポーツ自体が好きだから

そのスポーツのチーム・選手が好きで家族・友人等に誘われたから

そのスポーツ自体が好きで家族・友人等に誘われたから

地元のチーム・選手だから

たまたまTVで放送していたから

その他（具体的に）

Q7. 【Q5 で観戦経験がない人】 TV 観戦したいスポーツがあれば教えてください

<チェックボックス・複数回答可>

プロ野球

Jリーグ

Bリーグ（バスケットボール、JBL、bjリーグを含む）

Vリーグ（バレーボール）

ラグビートップリーグ

プロテニス

プロゴルフ

MLB（メジャーリーグベースボール）

MBA（アメリカプロバスケットボール）

NFL（アメリカンフットボール）

○ Bリーグ（バスケットボール）に関してお伺いします

Q8. Bリーグの試合を試合会場で観戦経験を教えてください

<ラジオボタン>

観戦したことはない

1回

2～3回

4～6回

7～9回

10回以上

Bリーグを知らない

Q9. 【Q8 で観戦経験がある人】 主に誰と観戦しますか

<ラジオボタン>

ひとり

友人

家族

その他（具体的に）

Q10. 【Q8 で観戦経験がある人】 観戦理由を教えてください

<チェックボックス・複数回答可>

特定のチームのファンだから

特定のチームのファンの友達・家族に誘われたから

特定の選手のファンだから

特定の選手のファンの友達・家族に誘われたから

バスケットボールが好きだから

地元のチームだから

その他（具体的に）

Q11. 【Q8 で観戦経験がない人】 B リーグの試合を試合会場で観戦してみたいと思いますか
<ラジオボタン>
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全くそう思わない

Q12. 【Q8 で B リーグを知らない人以外】 B リーグの試合を TV 観戦してみたいと思いますか
<ラジオボタン>
非常にそう思う
そう思う
どちらでもない
そう思わない
全くそう思わない

Q13. 【Q8 で B リーグを知らない人以外】 B リーグのチームが青山学院大学の青山キャンパスの体育館をホームアリーナにしていることを知っていますか
<ラジオボタン>
知っている（どこのチームかわかる）
聞いたことがある（どこのチームかはわからない）
知らない・わからない

○ 大学におけるスポーツに関してお伺いします

Q14. 以下の大学の体育会のスポーツの観戦経験を教えてください

<グリッド>

野球

サッカー

バスケットボール

バレーボール

ラグビー

駅伝

陸上（駅伝を除く）

アメリカンフットボール

テニス

卓球

バドミントン

その他（具体的に）

観戦経験がない

観戦経験が 1 回ある

観戦経験が 2～4 回ある

観戦経験が 5～7 回ある

観戦経験が 8 回以上ある

Q15. 【Q14 であるの人】 主に誰と観戦しましたか

<ラジオボタン>

ひとり

友人

家族

サークル

その他（具体的に）

Q16 【Q14 であるの人】 観戦理由を教えてください

<チェックボックス・複数回答可>

そのスポーツのチーム・選手が好きだから

そのスポーツ自体が好きだから

そのスポーツのチーム・選手が好きで家族・友人等に誘われたから

そのスポーツ自体が好きで家族・友人等に誘われたから

サークルのイベントだから

そのスポーツにあまり興味はないが自分の大学だから

その他（具体的に）

Q17. 【Q14 でないの人】 観戦してみたいと思いますか

<グリッド>

野球

サッカー

バスケットボール

バレーボール

ラグビー

駅伝

陸上（駅伝を除く）

アメリカンフットボール

テニス

卓球

バドミントン

その他（具体的に）

非常にそう思う

そう思う
どちらでもない
そう思わない
全くそう思わない

Q18. 大学の体育会のスポーツの関心についてお伺いします

<グリッド>

野球

サッカー

バスケットボール

バレーボール

ラグビー

駅伝

陸上（駅伝を除く）

アメリカンフットボール

テニス

卓球

バドミントン

その他（具体的に）

非常に関心がある

関心がある

どちらでもない

関心がない

全く関心がない

Q19. 自分のキャンパスで大学の体育会のスポーツ・プロスポーツの試合があれば観戦したいと思いますか

<グリッド>

非常にそう思う

そう思う

どちらでもない

そう思わない

全くそう思わない

大学の体育会

プロスポーツ

○ あなた自身についてお伺いします

Q20. スポーツ経験の有無についてお伺いします

<グリッド>

野球

サッカー

バスケットボール

バレーボール

ラグビー

駅伝

陸上（駅伝を除く）

アメリカンフットボール

テニス

卓球

バドミントン

その他（具体的に）

中学校の部活

高等学校の部活

大学の体育会

Q21. 学年を教えてください

<ラジオボタン>

1年

2年

3年

4年・それ以上

大学院

【別紙3（第四章）】Bリーグの試合観戦前後における意識調査における質問項目（事前アンケート項目）

1. 現在も含め、これまでに運動部やクラブチームに所属してスポーツをしていたことがありますか（はい/いいえ）
2. 前問で「はい」と回答した方は、運動部やクラブチームに所属した経験があるのはどのスポーツですか。（野球/サッカー/テニス/バレーボール/水泳/バスケットボール/柔道/剣道/ラグビー/その他）
3. これまでにプロスポーツ観戦に行ったことがありますか？（はい/いいえ）
4. これまでに観戦したことがあるプロスポーツを次の中からすべて選んでください（野球/サッカー/テニス/バレーボール/水泳/バスケットボール/柔道/剣道/ラグビー/その他）
5. この1年間に何回スポーツ観戦（プロ、アマ問わず）に行きましたか？（0回/1~2回/3~6回/6回~9回/9回以上）
6. （1回以上行ったことがある人のみ）スポーツ観戦には誰と行くことが多いですか（複数回答可）（家族/恋人/大学の友人/地元の友人/スポーツファンつながり/その他）

調査依頼が来る前の時点で教えてください。

7. Bリーグは知っていましたか？（詳しく知っている/名前は聞いたことがあるが内容はあまり知らない/名前は聞いたことがあるが内容はまったく知らない/聞いたことがない）
8. サンロッカーズ渋谷を知っていましたか？（詳しく知っている/名前は聞いたことがあるが内容はあまり知らない/名前は聞いたことがあるが内容はまったく知らない/聞いたことがない）
9. サンロッカーズ渋谷が青山学院大学体育館を「ホームアリーナ」として使用しているのかわ知っていましたか？（詳しく知っている/聞いたことがあるが内容はあまり知らない/聞いたことがあるが内容はまったく知らない/聞いたことがない）
10. サンロッカーズ渋谷を応援しようと思いますか？（非常にそう思う/ややそう思う/どちらともいえない/ややそう思わない/全くそう思わない）
11. 前問の「サンロッカーズ渋谷を応援しようと思いますか？」で「非常にそう思う」「ややそう思う」と答えた方は、応援しようと思う理由として該当するものを次の中からすべて選んでください（もともと応援していたチームだから/好きな選手がいるから/青山学院大学の体育館がホームアリーナだから）
12. 青山学院大学とサンロッカーズ渋谷の関係において、あなたは次の各項目をどの程度期待しますか（非常に期待する/やや期待する/どちらともいえない/やや期待しない/全く期待しない）
 - ・ 【大学構内での情報発信の強化】
 - ・ 【プロバスケット選手との交流】
 - ・ 【青学生割引】
 - ・ 【応援団の結成】
13. プロスポーツの情報はどこから得ますか（SNS（Twitter、FaceBookなど）/LINE/Webサイト/テレビ/友人や家族からの口コミ/雑誌/新聞）

14. 大学スポーツ（陸上部（駅伝）、野球部、ラグビー部、バレー部、バスケット部など）の情報はどこから得ますか（大学の掲示板／SNS（Twitter、FaceBook など）／LINE／Web サイト／テレビ／友人や家族からの口コミ／雑誌／新聞）
15. 大学スポーツの観戦や応援に行ったことがありますか？（はい／いいえ）
16. 大学スポーツの観戦や応援に行きたいと思いますか？（行きたい／時間と場所があれば行きたい／行きたいとは思わない）
17. 青山学院大学とサンロッカーズ渋谷の関係において、サンロッカーズ渋谷へのご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。
18. 青山学院大学とサンロッカーズ渋谷の関係において、大学へのご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。
19. 性別（男性／女性）
20. 居住地
21. 出身地
22. 学生番号
23. 名前

【別紙4（第四章）】Bリーグの試合観戦前後における意識調査における質問項目（事後アンケート項目）

1. ゲーム観戦は楽しかったですか？（非常に楽しかった／やや楽しかった／どちらともいえない／あまり楽しくなかった／非常に楽しくなかった）
2. ゲームの観戦によって、Bリーグに対するイメージは変わりましたか（非常に変わった／やや変わった／どちらともいえない／あまり変わらない／変わらない）
3. 前問の「Bリーグに対するイメージは変わりましたか？」で「非常に変わった」「やや変わった」と回答した方は、ゲームの観戦によってどのように変わりましたか？（自由記述）
4. ゲームの観戦によってサンロッカーズ渋谷に対するイメージは変わりましたか（非常に変わった／やや変わった／どちらともいえない／あまり変わらない／変わらない）
5. 前問の「サンロッカーズ渋谷に対するイメージは変わりましたか？」で「非常に変わった」「やや変わった」と回答した方はどのように変わりましたか？（自由記述）
6. 青山学院大学に対するイメージは変わりましたか？（非常に変わった／やや変わった／どちらともいえない／あまり変わらない／変わらない）
7. （「非常に変わった」「やや変わった」人に）どのように変わりましたか？（自由記述）
8. また観戦に行きたいですか？（非常にそう思う／ややそう思う／どちらともいえない／あまりそう思わない／全くそう思わない）
9. 学生一般が購入できるチケット価格の最大値はいくらくらいですか？（500円／1000円／2000円／3000円／4000円／5000円／8000円／10000円以上）
10. 今回の満足度をチケット値段で置き換えると一番近いのはいくらですか？（500円／1000円／2000円／3000円／4000円／5000円／8000円／10000円以上）
11. 観戦を通じてご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。
12. 青山学院大学とサンロッカーズ渋谷がお互い発展するためには、青山学院大学には何を求めますか？
13. 青山学院大学とサンロッカーズ渋谷がお互い発展するためには、サンロッカーズ渋谷には何を求めますか？
14. 青山学院大学の学生らに観戦してもらうためには何が必要だと思いますか？
15. ご意見・ご要望などがありましたらご自由にお書きください。
16. 学生番号
17. 名前

第五章 広報活動

本学の取り組みは、以下の通り複数の新聞等でも取り上げられ、スポーツ庁の本事業について広く一般の方々への周知する機会を得ることができた。

①	2017.9.15	朝日新聞	<p>【スポーツ通信】8大学に事業委託</p> <p>スポーツ庁は14日、大学スポーツの活性化に向け、進んだ試みを行う8大学を選定し、発表した。青学大は「地方創生」による大学スポーツ振興の一例として、包括連携協定を結ぶ滋賀県米原市との共催で10月1日に市民向けの駅伝大会を開く。</p>
②	2017.10.2	京都新聞	<p>青学大・原監督、米原市で授業</p> <p>「半歩先の目標 設定を」米原市スポーツ応援大使で青山学院大陸上競技部の原晋監督を講師に招いた体育イベントが1日、同市入江の米原中であった。</p>
③	2017.10.3	滋賀新聞 夕刊	<p>青学チーム、ごぼう抜き 初の駅伝大会、米原中陸上部Aが優勝</p> <p>「青学米原駅伝」が1日、米原中学校で行われ、市民ランナーたちが選手と一緒に力走した。</p>
④	2017.10.4	中日新聞	<p>「青トレ」小中学生に伝授</p> <p>米原市米原中学校で体験授業を行った。原監督は、部内で実践している体幹トレーニング「青トレ」を小中学生30人に伝授した。</p>
⑤	2017.10.6	滋賀新聞 夕刊	<p>米中陸上部Aが優勝 青学チーム招いて</p> <p>青学陸上部を招いた「青学米原駅伝」が1日、米原中学校で行われ、市民ランナーたちが選手と一緒に力走した。約450人の観客からは「早い」「すごい」などと歓声が上がっていた。</p>
⑥	2017.10.13	読売新聞 夕刊	<p>箱根駅伝王者 青学大 地域貢献もリード</p> <p>米原の小中学生らを指導 箱根駅伝王者の青学大と滋賀県米原市が新たな試み始めた。そこには「大学の活動を地域創生に結びつけたい」とする原監督の思いがある。</p>
⑦	2017.12.14	蜚雪時代	<p>MAIBARA×AOGAKU駅伝(日本版NCAA創設事業)開催</p> <p>イベントは公開講座と駅伝大会の二部構成で行われ、公開講座には、同大学陸上競技部長距離ブロック監督の原晋さんが登壇した。</p>
⑧	2018.1.24	日本経済新聞	<p>大学スポーツ地域を元気に 青学大市民と駅伝大会</p> <p>地元住民と駅伝を走る青山学院大学陸上部の学生(2017年10月、滋賀県米原市)大学がスポーツを通じた地域の活性化に乗り出している。自治体と連携してイベントを開催するほか、地域のスポーツ拠点としての役割も担う。大学の知名度向上のみならず、市民の健康づくりや交流を図る。</p>
⑨	2018.1.30	毎日新聞	<p>スポーツ「脱課外活動」へ 環境整備、収益拡大へ新組織設立計画 地域活性化のけん引も</p> <p>「大学スポーツは地域社会の活性化をけん引できる」と話すのは、全国大学体育連合の安西祐一郎会長。本紙に例として挙げられたのは10.1に開催した「青学米原駅伝」を上げられている。</p>



スポーツ庁
JAPAN
SPORTS
AGENCY



青山学院大学

AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY